

ジーンズ用語解説

JEANS TECHNICAL TERMS



CONTENTS

Chapter I ジーンズ関連用語	3
1. 「ジーンズ」と「デニム」の定義	3
1.1 ジーンズの定義	3
2. ジーンズに使われる素材.....	4
2.1 主な繊維素材.....	4
2.2 綿糸・紡績.....	4
2.3 染色.....	5
2.4 織物.....	8
2.5 織物の加工.....	12
2.6 洗い・製品加工.....	13
2.7 その他の織物	17
3. スタイル・ディテールに関する用語	20
4. トップスの用語	33
5. グッズ・アクセサリーの用語	42
Chapter II ジーンズ生産に於ける主な用語	43
1. 企画・設計	43
2. 生産.....	44
2.1 縫製準備工程.....	44
2.2 縫製.....	45
2.3 ジーンズ縫製における欠点用語	51
2.4 製品の検査.....	54
Chapter III ジーンズビジネス関連用語	55
1. ビジネス用語編	55
2. アルファベット編.....	69

ジーンズ用語解説

繊維産業界では数多くの専門用語が使用され、またジーンズ分野に於いても独特の表現が用いられている。そこで、ジーンズビジネスで常用されている用語を中心に、企画、生産、流通等の観点からまとめた。その都度検索することはもちろん、全部を通読することによって、あいまいな理解を明解にすることが可能であり、ジーンズの知識を高めていただければ幸甚である。

Chapter I ジーンズ関連用語

1. 「ジーンズ」と「デニム」の定義

1.1 ジーンズの定義

通常、ジーンズは綿(コットン)製の厚手の織物を使用し、生産性向上のための直線的裁断カッティングと頑丈さを得るための「巻き縫い」など特殊な縫製仕様によって製造されたズボン類をさす。素材の綿織物は藍染またはインディゴ染料を使用するためブルー(青)色系の外観を有するが、他の色の織物や厚手ニット生地の使用もある。

いわゆる「チノパンツ」は上記の定義には該当しないことが多いが、着用感覚や製造される工場の類似性から、広義の意味でジーンズに組み入れられることもある。また、ズボン類(ボトムス)のほか、上衣(日本名ジージャン等)や婦人服(スカート等)の形体に製造されるときも、簡便的に「ジーンズ」の分類に入れられることもあるが、用語の原則としてはあくまでズボン類である。

ジーンズは製造各工程が特殊な設備を要するため、他の衣料品とはやや分離された産業構造があり、またアメリカ合衆国の綿花産業の背景と開拓時代の労働作業衣服としての発展沿革を持つ。

1.2 デニムとは

「デニム」は織物の種類の名前である。一般的に定義付けをすれば、経糸(たていと)は太番手の純綿糸で同色の糸を使用し、緯糸(よこいと)には白く見える未晒糸あるいは晒糸を使い、3/1または2/1の綾織りにした厚地織物となる。本来糸種や経糸の色に限定は無かったのだが、藍(あい)やインディゴの染料で濃紺や青色に染めることが多く、デニムといえば「ブルーデニム」という印象が強くなってしまった。従って、「ブルーデニム」、「カラーデニム」と正しく使い分けをしたほうが適切である。また、「デニム」の用語を、生地ではなく製品の「ジーンズ」の意味で多用すると混乱が生じることに留意すべきであろう。

「デニム」の言葉の由来は明白である。フランス南部地中海沿岸にニームという都市がある。古くからの港町マルセイユから西へ100km以内という立地の平野部を活用して、葡萄や織物の産地であった。この地で、マルセイユ経由でインドから導入された綾組織の厚手織物が量産され、ニーム地方のサージ(綾織物) Serge de Nimes(セルジュ・ド・ニーム)と呼ばれるようになり。英語圏で訛って Denim となった。

2. ジーンズに使われる素材

2.1 主な繊維素材

■綿、綿花

繊維素材としての綿は、麻、羊毛、絹とならんで重要な天然繊維である。綿花は植物学上、あおい科わた属に属し、とくに繊維をつくるわた属はアルボレウム、ヘルバケウム、バルバデンセ、ヒルスツムの4つに大別される。綿の木は温暖な気候に育つ低木で、開花した実の中の種子の周囲に白く細い綿毛がかたまりとなってコットンボールと呼ばれる朔(さく)を形成する。その状態で採集するものを綿花(めんか)と呼び、繊維の原料になることから原綿(げんめん)とも言う。世界的に広く栽培され、米国、中国、ソ連、インド、パキスタン、などが主要産地である。歴史的にも、アメリカ南部での綿花産業は、国の発展に大いに貢献し、またジーンズ衣料を生んだ。

現在、アメリカにおける綿花は、通常アメリカ綿と呼ばれるアップランド種(ヒルスツムの品種改良)とエジプト綿タイプ(バルバデンセ)のピマ種を中心に開発された超長繊維綿スーパーピマとに大別される。そして、このアップランド種は世界に広がり、いまでは世界の綿花生産の約90%を占めている。



→



→



綿の花

緑色の朔

綿実(コットンボール)

■テンセル、リヨセル

英テンセル社が「テンセル」、オーストリアのレンチング社が「リヨセル」の名称で生産している繊維素繊維。レーヨンが木材パルプを化学反応で溶解・再生するのに対し、テンセル等は溶剤でとくすだけの工程で作られる。公害もなく環境に良い。強度にまさり、ハリ、コシがありながら風合は全体として柔らかい。ソフトジーンズの代表商品として、女性に愛好者が多い。

■ヘンプ

英語で「大麻」のこと。化学肥料を使わないで栽培出来て生長も早いので、地球環境にやさしいとされる。麻の特徴である粗野さと、ドライタッチ感があり、夏場の衣料素材として、シャツや一部ジーンズボトムスに使用される。

2.2 綿糸・紡績

■綿糸の種類

綿糸の性質は、その原料である綿花の繊維の長さ(繊維長・毛筋)、グレード(格:繊維の色合いや葉ごみの混入度)、キャラクター(格と長さ以外の性質で、成熟度、繊度、強力、均斉度など)によって左右される。綿糸をつくる工程は、綿花の中に含まれている葉などの夾雑物や短い繊維を除去し、繊維を平行に引き揃えて均一な太さのわたの束(スライバー)をつくり、これを引き伸ばし

(ドラフト)で撚りをかけて糸にする。この工程のうち、スライバーにする機械をカード(Card)といい、すべての綿糸はこのカードの工程を経ており、カード糸と呼ばれている。また、さらに短繊維の除去と繊維の平行引き揃えを良くするためにコーマー(Comber)という機械にかけて精製した糸をコーマ糸と言う。コーマ糸は、繊維が均一に揃っているので糸むらが少なく、美しい光沢があり、強みに優れ、やや高級な商品となる。

■番手

綿糸の太さは番手という単位で表している。

綿糸 1 ポンド(453.6 グラム)で 840 ヤード(768 メートル)の長さのものを 1 番手といい、標準重量 1 ポンドにおける糸の長さが単位長(840 ヤード)の n 倍であれば n 番手となる。通常 14 オンスデニム生地には 6 番手~8 番手が使用されている。数字の小さな番手ほど太い糸になる。軽い 12 オンスデニムの生地には 10 番~20 番手の糸が使用されている。紡績糸関係縫糸は同じ様に綿番手が基本として使われているが、綿の紡績糸そのものとは若干太さが異なる。(※合繊関係縫糸は、デニールが基本)

■織糸の変化

最近では、デニムなどジーンズに使われる織物素材に、主として外観上の変化を与える目的でさまざまな糸が開発されている。ムラ糸とは、一本の糸の太さが均一でなく目でわかるほど太かったり細かったりする仕上りにするものを言う。スラブ糸とはさらに一本の糸のところどころにスラブ(こぶのような固まり)を作ったものを言う。これら変化した糸を通常の均一な糸と引き揃えたりして、織物の経糸に使用しとくに製品洗いの後に経ムラ感や雨ふり感などの外観を楽しむことが多くなっている。ジーンズ固有のユーズド感覚、中古感覚ならではの手法である。

■紡績の種類

リング紡績と空気精紡

紡績工程に於いて、平行に揃えられた繊維の束に撚り(より)を与えて、強度と安定性を得ることが必要である。紡ぐ(つむぐ)という語源のとおり、最も重要な工程である。デニムなど綿織物では、現在二つの紡績方法が主流である。ひとつはリング紡績で、輪(リング)状になった部分を粗糸が通過することによって、いわば機械的に均一に撚りがかけられる。一方、空気精紡は、繊維の束を一担バラバラにして撚りを外した後、空気の噴射などによりもう一度引き揃えて撚りをかけるものである。空気精紡で作られる糸は空紡糸と略されたり、繊維が一担バラバラになることからオープンエンド糸(端っこが繋がっていない状態になる時があるという意味)、あるいは紡績機器の名称から BD 糸などとも呼ばれる。空紡糸は生産効率も高く、バルキー性もあるということで世界の主流ではあるが、やや強度や毛羽の多さなどに難があるとされる。現在、日本のデニム紡績は伝統的にリング糸が主流で、中級・高級ジーンズ素材として諸外国での評価も高く輸出されている。

2.3 染色

一般に繊維製品を好みの色や風合い(手ざわりや肌ざわりなどの感触のこと)に仕上げることを整理・染色というが、ジーンズの場合は少し複雑である。一般的に織物は、先染めと後染め(あとぞ

め)に区別される。先染めは糸染めということも多く、文字どおり織られる前に糸の状態で染色される。格子やチェックなど柄を表現する場合に使われる手法であることは容易に理解できるであろう。これに対し、後染めは生地形で染色される場合を言う。また、染める前の生地は生機(きばた)と言う。英語では糸染めを「ヤーンダイ」、生地染めを「ピースダイ」と言う。ブルーデニムについては、一部の例外を除いてほとんどが先染め(糸染め)である。インディゴ染料に何度もくりかえして浸けなければならないので、生地で染めるのには繁雑で都合が悪いことが主な理由である。一方、カラージーンズは、先染めのカラーデニムという例もあるが、大半が後染めであることが多い。さらにジーンズの場合、特殊なのは縫製が終わった完成品を染める製品染め(ガーメントダイ)もある。ジーンズ製品の後加工(ウォッシュ工程)の設備が使えることや、製品で染色した時の仕上がり品のムラやシワ感がかえって好まれるというジーンズ固有の審美感が前提となっている。

なお、無地の生地に花や人物など、具体的な絵柄を染料や顔料で描く手法を捺染(なせん)、プリントといい、広い意味での染色方法の一種である。

■デニムの染料

繊維製品を染める材料を染料と言う。染料や染色方法また染色機械は種類が多いが、ここではデニム関係の染色(主として糸染め)について述べる。ブルーデニムはインディゴ染料(天然インディゴは日本では藍と呼び、一般的には構造的に同じ成分の合成インディゴが使用されている)を還元→空気による酸化という方法で染色している。一方ブラックデニムは、現状、黒色の色素を持つ成分が硫黄系の材料であるのでナトリウムでやはり還元した後、酸化して付着させている。そのため、後処理をうまく行わないと硫黄成分が残って臭いや物性劣化の原因となるので注意が必要である。また、インディゴブルーの染色にも、後進国等ではこの硫化染料が使われていることが多い。

■一般的な染料の種類

○直接染料

〔性質〕水溶性で、色やや不鮮明

〔適合繊維〕綿、羊毛、絹など

○酸性染料

〔性質〕水溶性で、酸性の液に溶かして染める

〔適合繊維〕絹、ナイロン、アクリル、綿には不適

○塩基性染料

〔性質〕綿などにはタンニン酸など酸性物質を媒体として染色可能

〔適合繊維〕絹、羊毛にはほぼ直接染まる。アクリルには良く染まる

○媒染染料・・・草木染め

〔性質〕一旦、金属系化合物に固着させてから染める

〔適合繊維〕綿、麻

○建染染料(バット)・・・ブルーインディゴ

〔性質〕そのままでは水に溶けないので還元した後に水に溶かし、染色後に酸化し

て発色させる

〔適合繊維〕綿、麻、羊毛、レーヨン・・・ブルーデニム

○反応染料

〔性質〕化学反応で強い分子結合で染着し、堅ろう度は強い

〔適合繊維〕綿、麻、レーヨン、最近ではナイロンも

○分散染料

〔性質〕水に溶けないので分散剤(界面活性剤)で分散させた状態にして繊維の分子中に閉じ込める

〔適合繊維〕ポリエステル、レーヨン

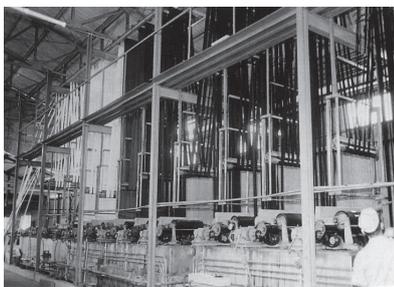
○硫化染料・・・ブラックデニム

〔性質〕「黒」の成分を持った硫黄鉛をナトリウムで還元して水にいったん溶かし、繊維に吸収させた後、酸化させて不溶性の色素に戻す方法。硫黄成分が入っているため、残留すると生地をいためる。公害対策要

〔適合繊維〕綿、レーヨン

■デニムの染色方法

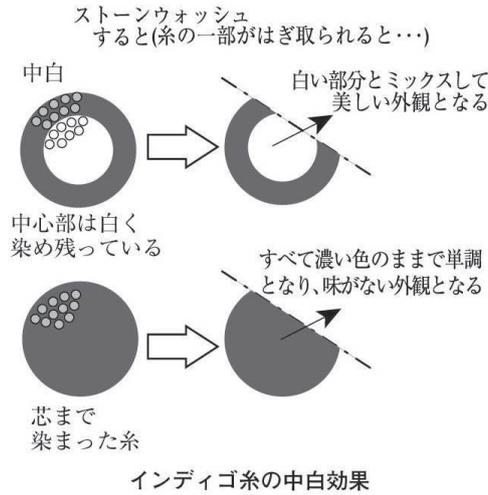
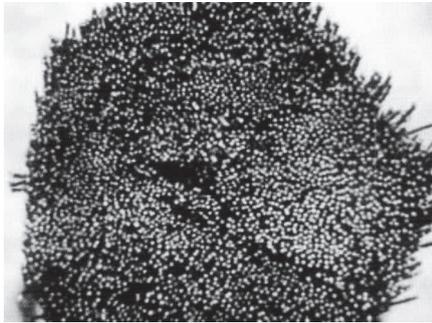
日本のインディゴブルーデニムは、'70年代にアメリカのコーンミルズ社等の本格的な製造方法を学んだ経緯から伝統的にロープ染色法が多い。ロープとは文字どおり綿糸を数十本まとめてロープ程度の太さにしたものを一単位として、平行にならべてローラー駆動によってインディゴ液に浸漬していく作業工程を特長とする。これに対してスラッシャー染めとかシート染めと言われる方法は、糸はロープ状ではなく一本一本分離した状態で行う。



ロープ染色機

■中白効果

デニムの経糸の紺糸の断面を拡大すると、芯白の堅牢染になっている。従って、着用後洗濯の回数に応じて糸の表面が摩滅して、糸の芯白の部分が現われ、白線が走ったような独特な色調を表現する。粗悪なデニムの場合、糸の芯部まで染色されているので、表面を摩滅してもあまり変わり映えがしない。もっとも致命的な染色技術の差はブルーの一様性にある。良質のデニムの場合は一様性は変わらないが、粗悪なデニムの場合洗濯すると濃淡が現れ、みにくくなる。



断面が中白の糸

■W(ダブル)ディップ・デニム

インディゴデニムは、別項のようにロープ染色法という工程で、インディゴ染料の浴槽(バス)の中を一工程で通常7~10回通過して染色された経糸で作られる。その回数にあき足らず、さらにもう一度以上同じ工程をくりかえして、より「濃度の高い」経糸を作ることがある。これをWディップデニムと言う。色の濃さをアピールする先端ジーンズの原料となる。

■染色堅ろう度

糸、生地、製品を染色した際の色の落ち具合、汚れ具合等の丈夫さ(洗濯、摩擦、光、汗、塩素)を一定の検査基準に基づき、試験により検定すること。等級により表現され9段階にわかれ、5級が最も染色堅ろう度が高く色落ちや色の汚染に一番強いということになる。

洗濯試験・・・洗濯した際の衣服の色落ち、変色などの丈夫さの検査

(JIS L 0844 A-1・A-2号)

汗試験・・・汗が出た衣服についての色落ち、変色などの丈夫さの検査

(JIS L 0848 酸性・アルカリ性)

摩擦試験・・・衣服がこすれた際の色落ち、変色などの丈夫さの検査

(JIS L 0849 II形)

デニム素材は他の衣服と異なる染色方法[ロープ染色(中白効果)]ということから、摩擦堅ろう度をはじめ染色堅ろう度は他の衣服・生地と比べ悪い為、使用される前に試験を行うことが重要である。

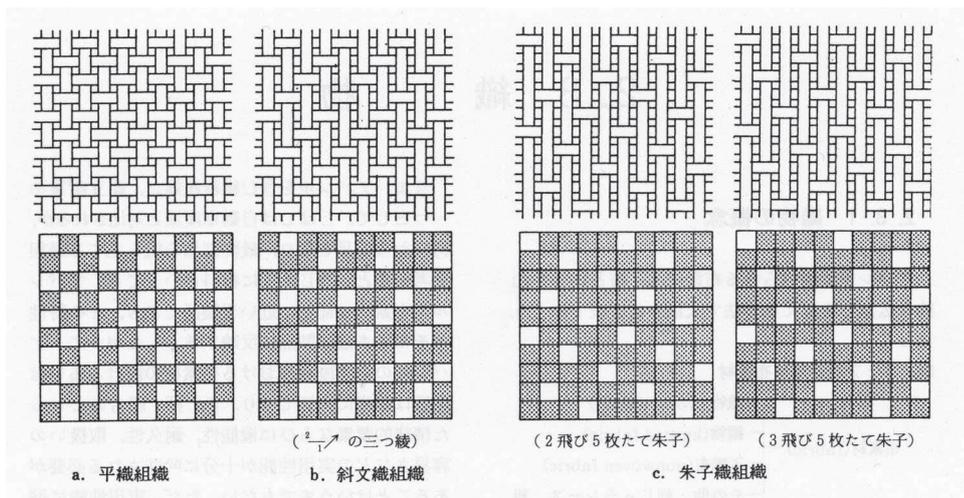
これらの染色堅ろう度のほかに、ジーンズにおいては物性的なデニムの素材の強さ(引っ張り強度、引き裂き強度)などの試験も必要である。(JIS L 1096)

2.4 織物

■織物の三原組織

織物の組織には、基本的な組織として、平織、斜文織(綾織)、朱子織とがあり、これらを織物の

三原組織と言う。



■綿織物の幅・長さ・密度と表し方

織物には、その用途に応じて幅と一反の長さが決まっている。綿織物は幅 36 インチ (91 cm) で 1 反の長さが 30~40 ヤード (27~37m) 前後のものが多い中、従来デニムは 122cm 幅が多かった。しかし、革新高速織機の開発とともに裁断効率の向上もあり、現在では 150cm 以上のものが多くなり、世界的なデニム需要に合う合理的な素材となっている。また、長さは 50~60m を一反としたものが多い。

経糸と緯糸の密度は、一般に1インチ (2.54cm) 間の糸本数で表す。

■オンス

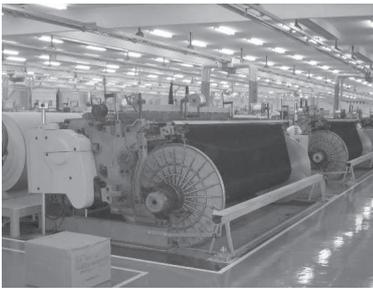
1 オンス=28.4 グラム。英米で使われるヤード・ポンド法の重さの単位。デニムの厚さの表示に使い、1 平方ヤード (90×90 センチ) の重さをオンスで表す。メンズベーシックジーンズの生地は 14 オンス前後。一着分の生地ではサイズにもよるが約 600g 程度にもなる。

■デニム(綾織)の特長

ジーンズは、洗えば洗うほど味がでてくる丈夫な糸染め織物で、経に太い色糸を、緯にやや細目の晒し糸を用いて2/1又は3/1の綾に織り上げると、布の表には経糸が多く、色が緯糸の色目より濃くなる。厚手のものは 14 オンスデニムとか、薄いものでは7オンスデニム(1 オンス:28.4 グラム)と、用途に応じた肉厚のデニムがある。

デニムの基本色はインディゴ・ブルーで通常は濃色であるが、中古加工(あらかじめ使い込んだように見せる)して色落ちさせたものや、経緯に美しい染色をした糸を用いたカラーデニムや縦縞を織りだしたものもある。

なお、デニムとは逆に経に晒糸、緯に色糸を使って綾織に織り上げたものは「ダンガリー」と呼ぶ。

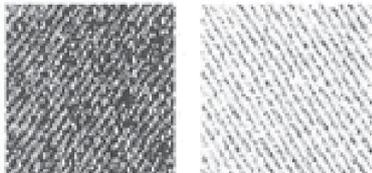


スルザー織機

■ レフト・ハンド・ツイル(逆綾)Left hand twill

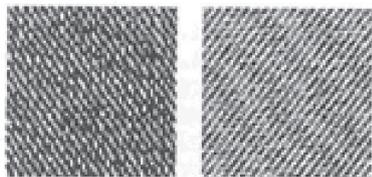
ソフト素材の一種。デニム、カラーともある。通常のジーンズ織物は右上がり(表から見て右上がりの畝が強く感じられる)の織り方が中心だが、逆に左上りの織り方に変えると、糸の撚り方向との関係もあって、フラットな柔らかい手触りとなる。この性質を利用して、ソフトジーンズの製造の目的で作られた綾織をレフト・ハンド・ツイルと呼ぶ。

通常の「右綾」



オモテ 右上がりに見える
ウラ 逆に右下がりに見える

最近流行の「左綾」レフトハンドツイル

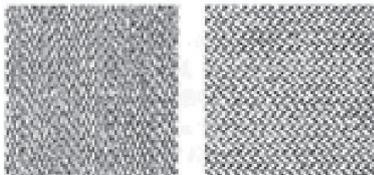


オモテ 左上がりに見える
ウラ 逆に左下がりに見える

■ ブロークンデニム・Broken denim (twill)

例えば、右上がりだけを連続せず、表から見て経糸が緯糸の上にくる配列を一目ずつ右上がり右下がりと交互に構成させる織り方。綾目を構成しない、つまり「くずす」の意味から、ブロークンの言葉が発生した。外観も実際もソフトでデリケートな性質のデニム織物になる。

「ブロークンデニム」



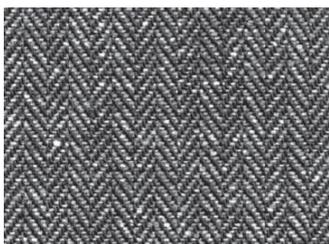
オモテ 綾目は一目ずつ右上がり、左上がりを繰り返す
ウラ 同じく綾目は見えない。横糸を強く感じる

■太綾(綾織)・Drill

経緯に 20 番手以下の単糸を用いて 2/1、又は 3/1 の綾目に織ったもので、ドリルとも呼んでいる。一般的に経密度がつんでおり、従って斜文線の角度が急になっており、表面が滑らかで緻密な、しかも糸の太い織物なので丈夫というのが太綾であり、古くから雲斎、葛城(カツラギ)と呼んでいるものもある。

■杉綾(ヘリンボンツイル)・Herringbone twill

綾目の方向を一定の間隔で切り替えることで綾目の流れがジグザクになる。それがニシンの脊椎骨の形に、また杉の葉のような形に織りだすことで名称が付けられた。



■ダンガリー・Dungaree

インド産の綾織綿布のこと。本来は、デニムとは逆の織り方で経に白色、緯に色系を使用していた。しかし現在は、一般にデニム生地より薄手のタイプの生地をダンガリーと呼んでいる。ダンガリーの語源は産地であるボンベイのダングリという地名に由来している。



■ストレッチ性を与える方法

綿織物にストレッチ性(伸縮性)を与えるには、

- (1) ポリウレタン弾性糸を芯に、綿糸がそれを覆うように撚り合わせ、伸縮性に優れた糸(綿 95%、ポリウレタン 5%)による綿織物本来の味をもった生地ができあがる。
- (2) 綿糸又は綿織物を苛性ソーダー処理により強く収縮させ、樹脂加工を行うことでストレッチ性を生じさせる。経方向に伸縮性をもっている。

近年レディス物を中心に流行しているストレッチジーンズはポリウレタン弾性糸を撚り合わせ、伸びやすく外観の優美なサテン組織の織物(生地染め)が多い。

- (3) ポリエステル弾性糸(高圧縮素材)繊維が直線ではなくギザギザの状態の糸を 100% 使用した物、綿をカバーリングした物など緯糸に使用した素材が開発された。ジーンズの洗い加工に用いられる塩素など薬品類についてポリウレタン素材より強く、キックバック性もあるが、伸度・風合いなどの問題点も残されている。

■ツーウェイストレッチ

ストレッチ素材は縦方向と横方向と、縦・横共に伸びるツーウェイストレッチがある。機能性・審美

性から近年レディースのジーンズ需要が特に多く、横方向のストレッチが一般的である。横ストレッチは製織上縦より難しさは少なく単価もこなれるが、ストレッチ素材そのものの安定性は難しいものがある。以上のことからツーウェイストレッチは年齢層の高いマーケット向けが多く、素材そのものも高価。

■ソフト&ライト

ジーンズ素材は、本来綿 100%のものが中心であり、伝統的な 14 オンスの綾デニムなどは、ゴワゴワした手ざわりの固い物であった。肌になじませるために、縫製品を人工的に洗い加工(ウォッシュ)したものが市場の中心であった。しかし'90 年代の前半頃から、さらにソフト(柔らかさ)であり、その目的のために 12 オンス以下(10 オンス程度まで)のライト(軽さ)なジーンズが急速に流行してきた。特にレディース分野で著しいが、メンズ分野でもその傾向は強い。カジュアルウェア全体が、自然感、デリケートな優美さを指向していることがその背景にあると言われている。

2.5 織物の加工

ブルーデニムは糸(先染め)の段階で染色をするが、他の織物(反染め)は製織後に後加工を行う。デニムも最終の仕上げ加工が非常に大切となりつつある。物性的な後加工もあったが、近年、素材の差別化(加工時の差別化)として重要である。

■防縮加工

着用、洗濯やアイロン掛けなどによって、綿織物が伸び縮みすることを防止するため、合成樹脂を使う化学的方法と、織物に蒸気を吹きつけて、あらかじめ計算した分だけ収縮させる方法がある。綿織物では、仕上げ加工の典型的なものとしてサンフォライズ式防縮加工があり、その伸縮性は経緯とも 1%以内にとどめることができる。

■しわ加工

ジーンズ製品に仕上がった時に、ゴワゴワとしたシワのような外観を得るために行う加工。激しく収縮する原糸を使用する場合と、織り上げた後で物理的、または化学的処理でシワを発現させる。

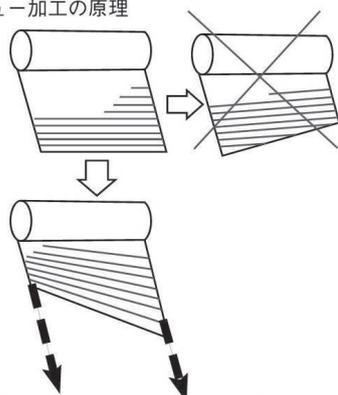
■起毛

起毛は文字通り、布の表面から繊維の毛羽をかき出すことであり、ソフトな風合いと表面効果が得られる。緯糸に太い甘撚りの糸を使った生地を起毛機の針布によってかき起こし起毛したもので、ネルやスエードなど高級起毛綿織物がある。また、別にエメリー・クロスというサンドペーパーのようなもので、生地をこすって軽く起毛し、ソフトな風合を出す方法もある。サテン組織の綿布の主として経糸を起毛した「ブラッシュド・サテン」がジーンズ素材として有名。

■スキュー

デニムなどの太い糸で綾組織に作られた織物は、縫製や洗いが終了し、緊張がゆるむと左右どちらかへ、振(ねじ)れる性質がある。これを防止するため、生地仕上がり段階(生地の左右の耳を連続したピンで確保しながら走行するピンセンターが主流)で左右の送行にわざと格差をつけておく。後にねじれがあらわれても相殺される工夫である。

スキュー加工の原理



綾織物は右（又は左）にねじれる性質がある。
あらかじめ逆の左（又は右）の方向にねじってお
いてねじれが発生しても打ち消すようにする

■マーセライズ加工・Mercerization

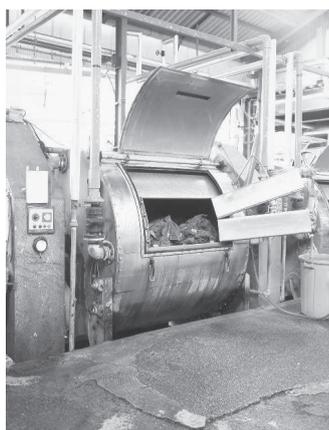
綿繊維製品を苛性ソーダの濃い溶液を用い、緊張状態で処理をし、光沢などを与える加工。もともと扁平な形状をした繊維1本1本の断面形状は膨らむと同時に円形に近い形に変形するので、同時に生地（あるいは糸）に適度な張力（引っ張る力）を加えると、繊維表面が平滑し、光沢が増す。

■コーティング・Coating

「コート」とは「覆う（おおう）」、「塗る」などの英動詞。生地の上からある目的をもって、合成樹脂などを塗布すること。

2.6 洗い・製品加工

ジーンズ製品は縫製後に種々の後加工が施されることに特長がある。素材や附属資材が頑丈であること、外観の変化を楽しむファッション特性があることなどが理由である。



ワッシャー

■ワンウォッシュ

もっとも簡便な方法。約60°C程度の湯で洗い、織物に付着した糊剤、樹脂などを除く。染料はあまり落ちず色相は濃いまま、風合もまだ固い。

■ブリーチ加工

1973年南フランスのリゾート(コートダジュール周辺)に端を発するブリーチアウトジーンズ(漂白し

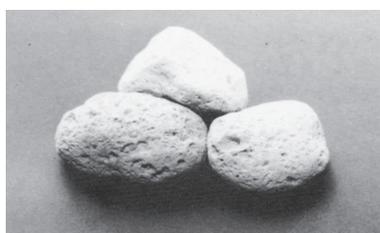
て淡い水色に色落させたブルージーンズ)が世界的な一大ブームとなり、日本のジーンズマーケットを席卷した。この加工は、主に塩素系の漂白剤で行う脱色加工で、中間色のものを「フェード」、淡色のものを「ブリーチ」といい、加工の強弱だけで、処方は同じである。

■モンキーウォッシュ

1980年頃、着古した感じにするために考案された加工で、膝やお尻の部分をサンドペーパーのようなもので、白く擦りあげた加工。

■ストーンウォッシュ

ジーンズ製衣服を加工して中古風の風合いを得ることを目的として、最初は手作業で1本ずつ加工を加えていた。(例、サンドペーパー使用)加工方法は、各メーカーの企業秘密だが「碎石」(砂利、軽石、砥石、ゴム)を洗濯機に入れてジーンズと一緒に洗い脱色させるとともに、生地をやわらかくさせるものである。10回も洗うと、この碎石のカドがとれて丸くなってしまいうので、碎石の選定に難しい。日本の生んだ世界的な技術として、世界共通の言葉として使われている。



軽石

バレル石

■サンドウォッシュ(サンドブラスト)

デニムジーンズの後加工ウォッシュ方法の一つで、1990年頃から人気が出てきた。天然の砂粒または人工的に作った「アルミナ」という細かい粒子を、圧縮空気の高圧ノズルからジーンズのヒザや尻などに吹きつけて、着古した感じを作り出す。粉塵やあたり感のボカシ処理など、量産への障害に対する装置の工夫などが図られて、ジーンズ洗い工程に欠かせない変化の一つとなった。中国ホンコンの工場では実際の砂の代わりに、脱色剤を液状噴霧している場合もある。

■バイオウォッシュ

バイオとはバイオ酵素のこと。酵素は一種のバクテリアで近年種々の目的に使われている。洗剤や廃液処理に使われているのは、それら汚れや不純物を吸収消化する性質のものである。ジーンズ用酵素は、綿糸などの繊維セルロース部分に効果がある。以前のストーンウォッシュが、実際の石材料を使うために石の採集や廃液汚染など弊害があったことがこの方法で解消された。

■ヒゲ加工

ジーンズなどズボン類を着用していると、立ち座りにより下腹部に股を中心にやや放射状のクセじわが数本できて、その部分がこすれて白く見える。それを俗に猫のヒゲと称し、中古感を出すため意識的にあらかじめ工場加工を施すこと。通常手作業である。

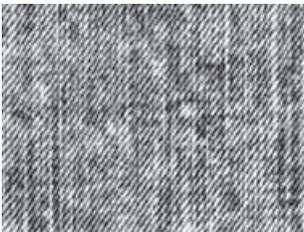


■ダメージ加工

ダメージとは衣服の一部、生地などが破れたり、ホツレたりすることを言う。中古感覚を得るため、あらかじめ刃物で「きっかけ」の切り口を入れたり、ウォッシュの機械を意識的に長時間運転したりして、それらの小さな破れを作り出す加工。

■ケミカルウォッシュ

ジーンズの表面をこすって色落ちさせ古さを出す加工がほとんどだが、'87~'88年に大ヒットした新しい加工で、塩素系の高濃度液を石に浸透させて、ジーンズの製品を釜の中で一緒に洗い、石がジーンズに当たる部分に色むらを起させる加工方法。欧米ではアシッドウォッシュ、スノーウォッシュと呼ばれている。



■タンニン染(処理)

ジーンズの後加工工程の一つ。「タンニン」は天然の泥や土に多く含まれる化学物質で、鉄分などと結合して赤っぽい黄色の発色性を永続的に持つ。ジーンズのスズなどが泥でよごれると洗濯後も、黄色っぽく変化するが、このことを逆利用して、合成されたタンニン剤をインディゴ染料や他の色の染料とも反応させて、使い古したオールド感を出す目的で使われる洗い工程にとり入れられている。

■製品染め(ガーメントダイ)

製品染めとは、縫製品にしてから染色を施す方法を言う。これによって、むら染めになるなど中古感覚が生まれることから、ストーンウォッシュの併用で古着ルックの表現に欠かせないテクニックとして注目。

■トッピング

すでに調理完成した料理の上に好みの副材料を乗せたりすることをトッピングというが、服飾では

上部に載ったものとか、頂部の飾りなどの意味である。また、染色用語としては染色加工の際、主工程に追加してさらに別の染料を加えたりすることを言う。例えばブルーデニムの洗いの他に赤い染料を加えて、複雑な色相に変化させたりすることがある。

■天日乾燥

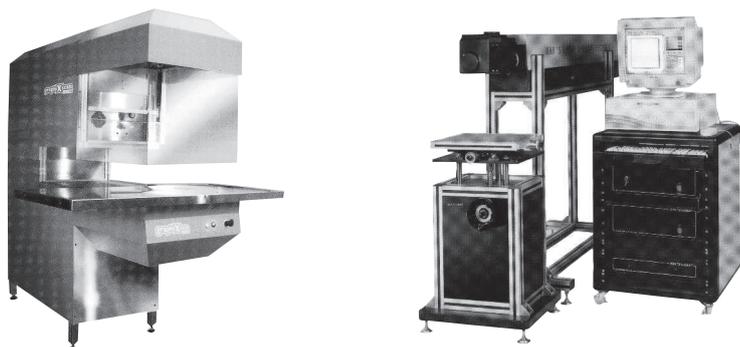
太陽の光や熱で乾燥させることを言う。通常、ジーンズ製品は洗いや後染め工程の後は、工業的にタンブラー機器で乾燥させる。一方まれに屋外の太陽光で乾燥させパリパリ感やフンワリ感を得る方法もある。

■タイダイ

いわゆる「絞り染」(しぼりぞめ)のこと。製品の一部を、細い糸で緊縛するなどして、そこだけ他の部分と違う色に染めること。また、それに似せたプリント捺染も多い。Tシャツなどトップス類に多い。

■レーザー加工

一般的にレーザー加工機は、紫外線より短い波長の光線だが、熱加工によって照射するタイプ(照射して色相を変化させるもの)と光線で金属材料でも削るタイプとがある。デニムの表面の加工からパーツの加工まででき、多彩なファッション効果を施せる。



レーザー加工機(照射タイプ) レーザー加工機(削るタイプ)

■インクジェットプリント

従来のプリント手法はシルクスクリーンプリントと呼ばれ、染料をのせる版が色の数だけ必要であり、また写実的な表現が難しかった。インクジェットプリントでは製版が不要で、複雑なデザインも高精細なプリント技術で簡単にでき、しかも黒や濃色などの色物にもプリントができるという特徴がある。



インクジェットプリント

2.7 その他の織物

■キャンバス

組織:平織

特長:経緯に太番手の双糸または引きそろえ糸を使って平組織で密に織ったもので一重の織物としては最も地が厚く丈夫です。キャンバス、ダック、帆布は同じ意味で使われるが、一般にキャンバスの方は軽目のものを言い、ダックや帆布は厚目のものを言う。

■シーティング

組織:平織

特長:日本でいう粗布(そふ)で通常 20 番手以下の太番手を使い、キャンバスより薄手の、経糸、緯糸の番手と密度の差があまりない平織織物。麻布の粗野な外観に似せて、粗く平織に織りソフトに仕上げた生地で、ホップサック(ビール製造のホップの実を入れる麻袋)と呼ばれるものもある。

■シャンブレー

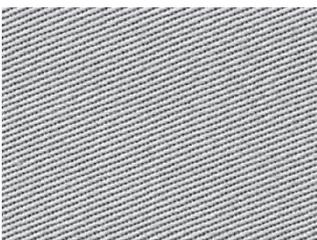
組織:平織

特長:経に色糸、緯に晒し糸を用いた平織織物で、布面の霜降り風の味わいが最高に良い。この上品な風合は糸染め織物ゆえに出せるものでシャンブレー効果とも呼ばれている。

■チノクロス

組織:綾織

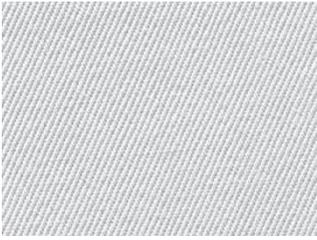
特長:チノ(Chino)は英米でチノというのは、軍服に使われる丈夫な綾織物で、コーマーがけの双糸を経緯に使い、シルケット・サンフォライズ加工を施し、カーキ色に染めた純綿織物のことを言う。この織物はもともと英国でつくられ、インド、中国へ輸出されていたものが、第一次大戦のとき、フィリピン駐留の米軍が軍服用に中国(China)から購入したところから、チノの名称が使われるようになったとのこと。



■ウエストポイント

組織:綾織

特長:ウエストポイントは、ニューヨーク州東南部、米国陸軍士官学校のある場所の地名からとったもので、本来ギャバジンの範疇にはいる布地であるが、米軍の軍服用織物の規格にもとづく輸出織物であったため、この名前が一般呼称となった。また、チノは、日本でいうウエストポイントと同じものと思われる。チノは 1950 年代の終わり頃より、米国などで、一般の制服やカジュアルウェアに使われるようになり、特にジーンズが頂点に達する頃にデニムに代わる新しいヘビー・デューティ素材として取り上げられてチノクロスとしてクローズアップした。



■ 綿サージ

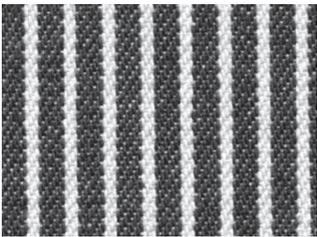
組織:綾織

特長:通常四つ綾と言う。単にサージといえは経緯に梳毛糸(そもうし)の双糸を用いた毛織物のことになる。綿サージは、普通、経に30番手より太番手の双糸、緯に単糸または双糸を経緯ほぼ等しい密度で配し、2/2の綾で織ったもの。従って斜文綾は45度に近い角度で表裏反対の方向にあるが、同じ綾目で現れる。綾目はやや平らな感じで、シルケットを施して光沢を強く出したり、起毛をしてフランネルとして使う方法もよく行われる。

■ ヒッコリーストライプ

組織:綾織

特長:ヒッコリーは作業着などの素材となる綿織物の一種で、ワークシャツやワークパンツに多く見られる。細いストライプをヒッコリー・ストライプと呼んでいる。別名、コム・ストライプとも言い、これはその名の通り、クシの目くらいの太さのストライプという意味。



■ スエード

組織:皮革類

特長:ジーンズに用いられる素材の一つ。本来は山羊や子牛の皮をなめし、裏側を摩擦して、細かい毛羽を一面に立てて、しなやかでベルベットのような手ざわりを出した皮のことである。同じような効果を狙って綿織物の表面を起毛したのも、現在ではスエードと称している。コール天、別珍ほどではないが、暖かみもあり、秋冬物のジーンズに使われる。

■ サテン

組織:朱子織

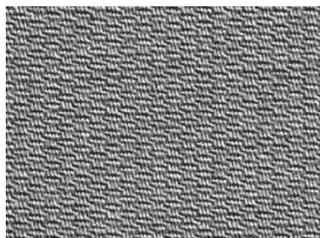
特長:光沢が美しく、滑りのよいなめらかな感触をもった織物。布面に緯糸が多くあらわれたものを緯朱子と言い、経糸が多いものを経朱子と言う。

■ ピッケ(ピケとも呼ばれる)

組織:ピケ織またはベッドフォード・コード織

特長:一般にピケというと緯方向に畝のある織物をいい、波形の畝のあるものはアートピケ(Art pique)と呼ばれる。また経ピケ(Warp pique)は、別名ベッドフォードコード(Bedford cord)とも呼ば

れ、経方向に太目の畝(うね)を織りだした厚手の丈夫な織物。畝の立体感と腰の強さと感触が好まれる。



■コーデュロイ

組織:パイル織物

特長:経方向に毛羽(パイル)の畝があり、畝の太い、細いや風合いがいろいろある。

畝の太さにより鬼コール(インチ間に6本前後)、中太コール(9本前後)、細コール(15本前後)、極細コール(20本前後)に分けられる。毛緯と経糸との組織の仕方で、ファースト・パイル(Wパイル)とルーズ・パイル(Vパイル)があり、ファースト・パイルの方が毛が抜けにくい組織が粗い欠点もあり、ルーズ・パイルは風合いが良く腰のやわらかいコーデュロイになる。毛羽により保温性がすぐれ、秋冬の衣料に最適である。



■別珍

組織:パイル織物

特長:コーデュロイと同じ原理で作られているが、畝が極めて小さいため全面的に光沢や艶がある織物、外観が優美で、発色も美しいのでジーンズにも用いられる。

■ビエラ

組織:綾織

特長:2/2の綾組織で一目純毛のフラノを思わせるもので、本来は綿と毛を半々に織りあげたもの。経緯に30番手~40番手の高級綿糸を使い軽く起毛した織物で、主にシャツ地として使われている。

■メルトン

組織:平織又は綾織

特長:5~20番単糸の紡毛糸を経、緯に使う平織または綾織にしたものを縮絨起毛して、地組織を毛羽でおおった紡毛織物。やや重目のやわらかい織物で、用途はオーバー地が主である。これらの薄地のものはフラノに属する。タテに梳毛糸または綿糸を用いたものもある。

■裏毛生地

組織:編物

特長:裏毛は緯編の一種で、表面は平編のように見えるが、裏面には太い甘撚りの糸が緯方向にパイル状に浮いて並んで見える。これを起毛して裏毛を立て肌着として使うことが多かったので、この名称が使われている。この布地は、地が厚く、保温性があり、吸汗性にもすぐれ、最近カジュアルウェアやジーンズ用素材に使われる。

3. スタイル・ディテールに関する用語

ジーンズは裾の開き具合、股上の深さによって、いろいろなスタイルにわかれ、また、色・柄・生地に結びつけた分類もある。

■ジーパン(G-Pant's)

和製俗語。ジーン・パンツの略、ないしジーアイ・パンツの略とする二説がある。

■脚長ジーンズ

現代の女性の願望の一つは痩せて見えること、スラリと脚(あし)が長く見えることである。ストレッチ素材を使ったり、シルエットパターンを改善して脚が長く見える商品が多く企画されている。

■アーシーカラー(earthy color)

大地のような色ということで、アース・トーン、アースカラーと同義語。地球上にある自然色というのがその大意で、ベージュ、オリーブ、サンド・カラー、カーキなどがある。自然指向が人間の基本的な欲求である以上、決してなくなることはない流行色と言えよう。

■ジーニスト

「ジーンズ」に人物を示す意味の「ニスト」を加えた造語。ジーンズを愛好する人、ジーンズの似合う人などの意味に使われる。日本ジーンズ協議会の「ベストジーニスト」が有名。



恒例となった「ベストジーニスト」表彰イベント(2007)

■クラッシュド(Crushed)

クラッシュドは「もみくちゃにされた」といった意味。通常はデニムの布目をわざと破れたように穴を開けるなど、着古した感じの加工を施したジーンズのこと。

■パンツ

米語で通常「ズボン類」のこと。一般的な「スラックス」、「パンタロン」までも含めての用語。この場合下着類を意味しない。

■美脚

90年代以降、レディス分野で、自分の身体、特に「脚(あし)」を長く、スラリと見せたいという消費者の願望に応じて企画されたジーンズが流行している。

■イージーパンツ

通常のジーンズが身体にピッタリとフィットして、余裕が少ないのに対して、ゆったりとした型紙や伸縮性のある素材などを使ったジーンズパンツ類の総称。

■ビンテージ

「ヴィンテージ」の項参照。

■シルエット(Silhouette)

元来はフランス語で「影」の意味。ファッション用語では、ある衣服の大まかな形、細さ、太さ、長さなどの組み合わせで構成される外観上の形のこと。「細身シルエット」、「バギーのシルエット」などと表現する。

■小尻

最近の日本の女性は自分のヒップを小さく見せる願望が多い。それらの欲求に合わせたシルエットのジーンズが隆盛である。

■スレンダー(Slender)

ほっそりとしたシルエットという意味で、スリム・シルエットに同じ。

■中古感覚

新製品のジーンズを長期間着込んだかのように、表面の部分的色落ち、かすれ、穴などの工業的加工を施す目的のこと。

■デザインパンツ

基本的なジーンズの形(5ポケット)とは異なり、各種の個性的なデザイン処理を売り物にするジーンズパンツのこと。1970年代後半に流行したが、また最近復活の現象もある。

■ユーズド加工(Used)

「使いふるした」かのような外観にするジーンズの後加工。「中古感覚」の項参照。

■アンチフィット(Antifit)

「フィット」の反対に「身体にピッタリとは合わない」、つまり「ルーズ」な型紙、シルエットのこと。身体のラインを強調しないファッションがかえって新鮮に感じられることもある。

■ユニセックス(Unisex)

同一のという意味で、性別を意識しない服装のことを指すときに用いられる。またモノセックス(Monosex)とも言う。ジーンズファッションは色柄、素材など男女共通の商品企画が可能である為、性別、年代、世界間を超えるグローバルな衣服となった。

■腰ばき

ウエスト部分を腰より低い位置に下げてややルーズに見せる。ボードに乗る際に、腰をかがめる姿勢にあった太目のシルエット、ポケット位置の商品の影響を受けてデニム素材での商品並びに、穿きこなし方。

■プレミアムジーンズ (Premium jeans)

「プレミアム」(特別割増価格)の価値のあるほどのジーンズの意味が語源。通常欧米の著名なデザイナーのジーンズなどをさすが、最近では1万数千円以上の価格でデパート、専門店などで販売される高価格ジーンズを意味する。

【代表的なスタイルは下記の通り】

●ウォッシュアウトジーンズ (Wash-out jeans)

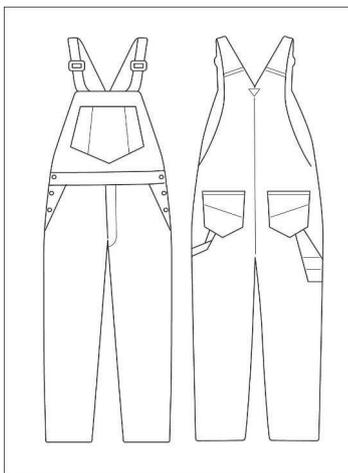
ウォッシュアウトは「洗いざらしの」「色のさめた」といった意味で使われている。つまり、ブルージーンズを5回ほど水洗いした感じのものを言う。ブリーチアウトジーンズと本来のインディゴブルージーンズの間のご感覚を狙ってつくられたもの。

●ウォームアップジーンズ (Warm up jeans)

裏をキルティング使いにしたり、ネルを貼り合わせたりして、暖かさを追求すると同時にロールアップ(裾を)したファッション性を楽しむジーンズ。

●オーバーオールジーンズ (Overall jeans)

胸あてつきジーンズのこと。この胸あてのことをビブといい、オリジナルのそれはビブオーバーオールなどと呼ばれる。胸あての上部に巾広のサスペンダーがくりつけになり肩で吊って穿かれる。別にカーペンタージーンズ、サロペットということもある。また機械工に多く用いられたことから、メカニシアンオーバーオールの名もある。本来、これは服の上に穿かれたものである。



●カーペンタージーンズ (Carpenter jeans)

ワークウェア(作業着)の一種であるが、特に股上が深く、全体のシルエットがゆったりしていて、ビッグサイズのバックポケット、サイドループにサイドポケットが付いているものを他のワークウェアと区別して呼んでいる。

●カットオフジーンズ (Cut off jeans)

カットオフ「切り離す」の意。ズボンの裾を切り離したショーツ型のジーンズのこと。多くはものあ

たりで無雑作に切り落とし、切り放しのままで穿かれる。

●カラージーンズ (Color jeans)

ブルー以外のデニムを使ったジーンズ。白から黒まであらゆる色ものがある。

●クラシックジーンズ (Classic jeans)

ジーンズの原型を保った、本物のジーンズの意味。また、ファッションジーンズ以外のオーソドックスなそれを言う。すなわち、リーバイ・ストラウスがジーンズを発明した1850年から、およそジーンズがファッションとしてブームを呼ぶまでのジーンズをさす。あくまでもブルーデニムを中心としたジーンズらしいジーンズを言う。

●クロップドジーンズ (Cropped jeans)

女性向ジーンズでまた下丈の短いものの一種。ひざとくるぶしの間程度の丈の長さで、スリム系のシルエットのものが多い。語源としては、クロップ CROP「刈り取る」の意味からきたとされる。ミュール・サンダルとの組み合わせで軽快な着こなしがポイント。

●コスチュームジーンズ (Costume jeans)

舞台衣装などに見られる派手なジーンズのこと。スタッドを打ったり模造宝石を飾りつけたり、ラメ入りのものなど装飾が施されたジーンズ。装飾ジーンズ。

●シガレットジーンズ (Cigarette jeans)

葉巻タバコのようなシルエットをしたジーンズの総称。

●ジェントリーフレードジーンズ (Gently flared jeans)

フレードタイプに見られる広がりを、いくぶん少なめにした上品な感じのシルエット。普通のストレートタイプのものに少しフレアーを加えた雰囲気。ニュートラディショナルタイプのスラックス。ソフトフレード (Soft flared)。

●ヴィンテージジーンズ (Vintage jeans)

元来ヴィンテージとは VINTAGE の語源のとおり「年代物のワインや酒」という意味であり、好事家が古いわれのある珍品を貴重品として呼ぶならわしから発生した。転じて、ジーンズの世界でも、アメリカ本国の古い年代物の古着ジーンズを中古市場で売買する現象を生んできた。そして実物として古いジーンズだけでなく、人工的なストーンウォッシュや穴あけなどでわざと古い年代物に見せかけたものも、ヴィンテージ風ジーンズということもある。

●スーパースリムジーンズ (Super slim jeans)

極端に脚にフィットした細身のジーンズ、ときには脚より細いと思われるほどスリムなものだが、若い人のジーンズとして安定した人気を保っている。多くはアメリカンカジュアル向きのパンツだが、これをより長く着こなし、前裾にスリットを入れ、ハイヒールシューズとともにヨーロッパ派を気取る人たちもいる。



●カプリパンツ (Capri pants)

婦人物でひざ上までの長さのジーンズパンツのこと。地中海のカプリ島などのリゾート地で軽快にはきこなすイメージからのネーミング。街着としてもおしゃれなファッションである。

●エンジニアードジーンズ (Engineered jeans)

「エンジニアード」を意識すれば、「工学技術的」に改革されたとでも言うか、3次元である身体の構造に合わせる効果があるために、「立体裁断ジーンズ」とも言う。元来ジーンズは、ヨークや身頃など直線的なカッティング手法で、身体の立体をカバーした合理的な衣服であったが、デニムの綾織りの特性や、ひざの屈伸が原因で、脚の部分が斜行する傾向があった。これを改め、わき線をカーブさせるなど、身頃を大巾に異形にしたジーンズが開発された。

●スキニージーンズ (Skinny jeans)

スーパースリムジーンズの別名。脚にピッタリまつわりついた、つまり皮膚のようなジーンズという意味である。

●ステータスジーンズ (Status jeans)

デザイナージーンズと同義。ステータスは「地位、身分」を指す言葉で、それを穿いた人が社会的満足を得るということになる。ブルーデニム使いのストレートやスリム型が多い。

●スパッツ (Spats)

元来はくるぶしの上までである短いゲートルの意で、ひざから下の部分の衣服(ないしはき物)であったが。現在のスパッツは、極めて細身で腰や両足をつつみ、身体の動きにつれて伸び縮みできるようなストレッチ素材をもちいたボトムの一つをさす。ニット類が多用されているが、伸びるデニムなどの布帛も多い。特に女性がスマートな身のこなしや生活感を楽しむファッションとして着用することが多く、ジーンズの世界でも重要なアイテムの一つである。尚、足裏にかけてループをひっかけて両足部分を伸ばす構造のものもある。

●ストーブパイプジーンズ (Stove pipe jeans)

文字どおり、ストーブのパイプ(煙突)のような形を特徴とする全体に細目のジーンズを指す。別名「パイプステム」とも呼ばれている。

●ストレート (Straight)

上から下までほとんど直線的なシルエットをさす。ズボンのシルエットの基準でもあることから「レギ

ュラータイプ」とも言う。

●ストレッチジーンズ (Stretch jeans)

身体の動きに合わせて、伸び縮みするジーンズのこと。生地の種類によって「たて伸び」、「よこ伸び」、そして両方とも伸びる「ツーウェイ」(2 方向)がある。脚の曲げのばしなどの運動機能にすぐれているのは、「たて伸び」であるが、最近では、女性のスマートなシルエットに見せたいという願望に応えた、「よこ伸び」のものが主流である。いずれも綿糸の中心(コア)にスパンデックス弾性糸を巻き込んだ構造の糸を使用しているものが多い。

●製品染ジーンズ

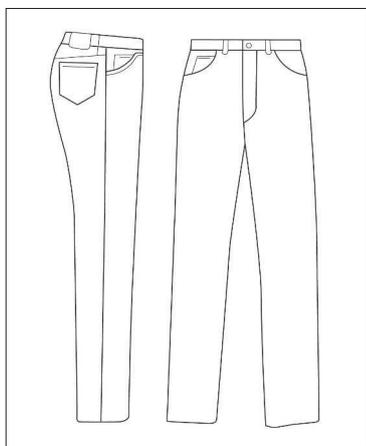
通常、カラージーンズは、すでに生地(原反)段階で染色されたものを裁断、縫製してジーンズ製品に仕上げる。これに対して、染色されていない生地をまず裁断、縫製して形のあるジーンズにしてから好みの色に染める。つまりジーンズ製品をそのまま、染色機械に入れて完成させる工程の商品を製品染と言う。流行の移り変わりに合わせて迅速に製造できるメリットがある。

●セミバギー (Semi-baggy)

バギーシルエットをおとなしくしたものの。裾幅やモモのあたりが、バギーに比べて誇張の少ないのが特徴。

●テーパードジーンズ (Tapered jeans)

太ももからスズにむかって細くなるシルエット。英語の「TAPERED」には、「先細となる」「次第に小さくなる」などの意味がある。



●ディナージーンズ (Dinner jeans)

1979年～82年頃に米国で流行った、細身のきれいなシルエットのジーンズの総称。ディナーの際に着用してもおかしくないドレスアップされた着こなしに合うジーンズ。デザイナー名を打ち出したデザイナージーンズと同じ意味合い。

●デザイナージーンズ (Designer's jeans)

ファッション・デザイナーによって独自に商品化されたジーンズ。1978年頃、ジーンズが若者を中心とした一部の衣服としてではなく、トータルな衣服の中の一つとして認められ、ファッションビジネスとして成り立ったスタートの時代米国で爆発的な人気を得て、日本にも紹介された。カルバン・クライン、サッスーン、バンダー・ビルト等がデザイナーの名前をバックに施し、一般のジーンズより価

格は高かった。現在でも海外からのデザイナージーンズは紹介されているが、インポートジーンズの言葉の意味合いにも近い。

●**ニュースリムジーンズ (New slim jeans)**

細身タイプのジーンズ。股上が深く、腰はピッタリフィットしているが、モモには余裕あり、ヒザから裾が細くなっているものもある。

●**バギー (Baggy)**

腰はぴったりしているが、モモから裾にかけてゆったりしているシルエット。

●**パターンドジーンズ (Patterned jeans)**

レギュラーやカラージーンズの色無地に対して、ストライプやチェック、プリント柄などのジーンズのこと。使用生地はデニムが主だが、その他の柄・生地を使ったものまで含むことがある。

●**ファッションジーンズ (Fashion jeans)**

オーセンチック(真正の)なジーンズ以外のジーンズをいう意味合いが強く、ファッション的な要素を多くとり入れたジーンズの総称とされている。これには素材をデニム以外のものにおきかえたタイプとディテールをファンシーなものにしたタイプの2とおりの考え方がある。前者にはカラージーンズやウールジーンズ、後者にはバギージーンズ、ボタンアップジーンズなどがある。

●**ファストバックジーンズ (Fastback jeans)**

バックヨークの部分に隠しポケットを切りこんだスタイルで、ファッションジーンズの一つ。

●**フェードアウトジーンズ (Fade out jeans)**

フェードアウト(音や映像が自然に消えてゆく)と同義で、洗いざらして自然にさめた色になったジーンズを言う。中古風な味わいをもたせたジーンズ。

●**ブーツカットジーンズ (Boot-cut jeans)**

ウエスタンブーツを履きやすくするためと、穿いたときに裾のシルエットがきれいに出るようにとの配慮から、裾をわずかにフレアード(広げ)させたジーンズ。



●**ブラックジーンズ (Black jeans)**

黒のジーンズ、ファッションブルなジーンズの代表として注目されている。黒のデニムを使ったものをブラックデニムジーンズと言う。その他、サテンやギャバジンなどといった光沢のあるドレスシーなものを使ったものはエレガンスであると同時に男っぽいジーンズとしても独得の味を秘めてい

る。

●ブリーチドジーンズ (Bleached jeans)

ブリーチアウトジーンズともいうように、インディゴブルーのジーンズを漂白剤を使って白くサラしたジーンズのこと。

●フレアード (Flared)

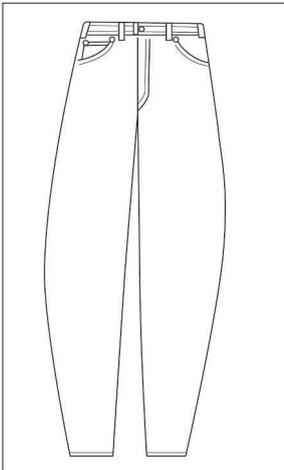
モモから裾口にかけての広がりを特徴とする。パンタロン型である。

●フレンチジーンズ (French jeans)

1985 年頃流行ったフランス系のデザインジーンズの総称。シッピー、リベルトなどのブランドが代表。

●ペッグトップジーンズ (Peg-top jeans)

腰まわりをゆったりとり、裾口へいくにしたがって極端に細くしたシルエットを特徴とするズボン。ボントン、ニューバギーとも近い言葉で人気がある。

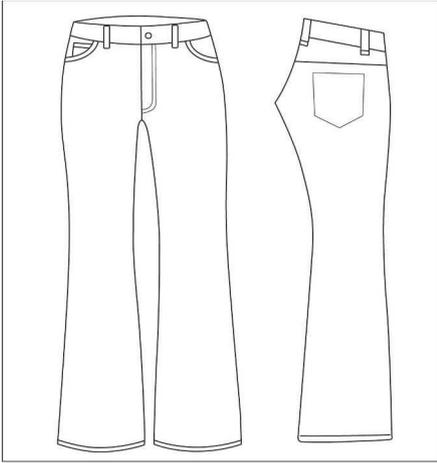


●ローライズジーンズ (Low rise jeans)

女性を中心に、2002 年頃から流行った股上の浅いジーンズ。通常は両足の分岐する前部位から、ウエストベルトの上端までが、約 24～26 センチであるのに対し、約 20 センチ前後まで短い。結果として夏はオヘソが見えたりするが、裾の短い上衣と組み合わせて若さを強調するなどのファッションとなる。ライズ (rise) はまた上丈の意味。逆にまた下丈が長く、腹部をつつみこむほどのものをハイライズジーンズと言う。また、ローライズジーンズは、女性の両腰骨の上端の部分で、ジーンズを支える感覚もあるので、ヒップボーンジーンズとも言う。

●ベルボトム (Bell bottom)

「ラップズボン」とも呼ばれる。鐘 (ベル) の下部といった意味で、裾広がりのシルエットを特徴とする。裾広がりといっても、厳密に言えば、これはヒップから膝にかけて、比較的フィットし、膝下から裾にかけて鐘の形のようにゆるやかに広がったタイプを意味している。極端に裾広がりになったものはエレファントベル、またヒップ下から広がったものはセーラーパンツの名称で呼ばれる。



●ボールドジーンズ (Bold jeans)

40年～50年代のアメリカのボールド・ルックを背景にワーク感覚をもってデザインされただぶだぶシルエットのジーンズの一群を呼ぶ。ジャズマンスタイル、またはロックンローラーの遊び心に富んだ古き良き時代のジーンズ。

●リアルジーンズ (Real jeans)

本物のジーンズということで、最近の新しいタイプの各種ジーンズに対して使われている言葉。普通のブルージーンズをさす。

●立体裁断ジーンズ

ジーンズは伝統的に直線のカットイングが主流であったが、人体の形や動き特にヒザの屈曲に合わせて曲線に裁断したジーンズが企画され流行した。エンジニアードジーンズとも言う。

●リメイクジーンズ (Remake jeans)

小さくて穿けなくなったり、ボロボロになったりしたジーンズを寄せ集めて1本分の生地にし、それを仕立て直した再生ジーンズのこと。また、部分的に古いジーンズなどで当て布をしたジーンズ、及びわざと穴を開け、ステッチにて破れを直し、新しい付属を付けるなど再加工したジーンズの総称を指す。

●レギュラージーンズ (Regular jeans) /

ベーシックブルージーンズ (Basic blue jeans)

ジーンズの中で、最も基本的なもの、ジーパン、ウエスタンパンツとも言う。使用生地は10～14オンスのブルーデニム。基本的な特徴は平面裁断で、表縫いの2本ステッチ、はりつけポケット、後ポケットの右上にメーカー名の入った皮(ボンテックスという特殊な厚紙)が縫いつけてあり、スタイルはスリム型ないし、ストレート型、ベルトループは5～6センチのベルトを通せること。

●ロールアップジーンズ (Roll-up jeans)

裾をまくり上げたジーンズ。わざとそうやって着こなししたジーンズルックのことと、最初から折り返しであるジーンズのふたつの意味がある。前者は着こなしのテクニックのひとつであり、これに派手なソックスを合わせるなどして、一層の効果を演出する。後者の場合、折り返した部分にタータン・チェックを配するなどの工夫を施している。

●ワークジーンズ (Work jeans)

作業用ジーンズという直訳がなされるが、むしろインディゴブルー、14 オンスデニムの昔ながらのストレートジーンズ、及びそれに付随するブルーデニムのオーバーオール、プッシュジーンズなどをいうニュアンスが近い。ワーク(仕事)をする上で 必要な機能(シルエット、股上の深さ、ポケットの大きさ、位置など)のデザイン、素材を有したものの。

●クライドパンツ (Clyde pants)

30 年代のギャング「ボニーとクライド」を主人公とした映画でサスペンダーで吊って穿いた、クラシック、かつアメリカ農夫を思わせるイメージをもったパンツ。

●クライマーパンツ (Climber pants)

クライマーは「登山者」のこと。登山用のヘビーデューティなつくりのパンツのデザイン・機能箇所をモチーフしたパンツ。膝下がコットン厚地で二重になったりしたもの。

●グルカパンツ (Gurkha pants)

最大の特長は、ウエスト・ベルトのデザインにあり、ヒモと尾錠で前を留める仕掛けになっている。グルカは旧英領のインド軍のグルカ兵にちなむ。こうしたデザインがアイビー調のパンツ、ショーツ、スカートにも取り入れられている。

●サブリーナパンツ (Sabrina pants)

映画「麗しのサブリーナ」でオードリー・ヘップバーンが穿いて流行したパンツだが、これを現代的にデザインしたもの。脚にピッタリフィットした細身のパンツで、ふくらはぎの中位置の長さの7分丈が特長。

●ジョドパースパンツ (Jodhpurs pants)

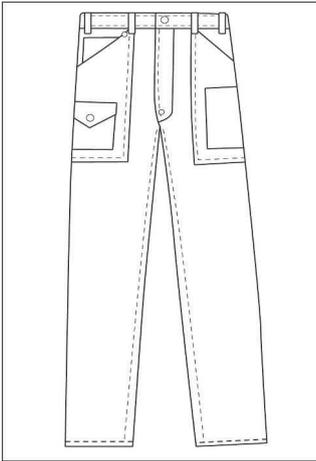
ジョッパーとも言う。即ち、乗馬ズボン。1985 年頃ヨーロッパのフレンチジーンズの影響から流行りだしたもので、乗馬ズボンのモモの部分のふくらみを抑え、裾丈も長くしてよりカジュアルなパンツにしたもの。

●ズートパンツ (Zoot pants)

40 年代初めのアメリカを中心に流行したダブダブで極端に太いシルエットを特徴とするパンツ。深い股上をサスペンダーで吊って穿くルーズシルエット。

●ブッシュパンツ (Bush pants)

ヘビーデューティファッションには必携のもの。トレイルパンツとも呼ばれ、フロントのループとポケットがひとつづきで、股上が深く、モモのあたりがゆったりとしているのが特徴のパンツをベースに、機能的なフラップ付きのパンツの総称に拡大解釈されている。



●ボンディングパンツ (Bonding pants)

ボンディングは「貼り合わせ生地」を言う。表裏に対称的な色や柄の生地を貼り合わせ、裾をロールアップ(まくりあげ)したりポケット口に使い、カジュアルさを強調したパンツ。

●マイルパンツ (Mile pants)

自宅を中心とした買い物や散歩などの普段着的感覚とおしゃれ感覚をミックスしたパンツ。

●マリンショート (Marine shorts)

海のイメージのショートパンツ。マリンルックの流行からおしゃれ性をもったパンツで、必ずしも海で用いるショートではない。

●ミリタリーショート (Military shorts)

軍隊のイメージのショートパンツ。たっぷりしたシルエットの膝上丈のパンツで、ウエスト部分がアジャスタブなどで機能的で、クラシックな味をもっている。

【ディテールの用語】

●赤耳・セルビッチ (Selvedge)

昔、デニムの素材(布地は力織機で織り、生地幅が狭い 27 インチ幅)は非常に貴重な物で、一つの製品を作るにも布地を大切に扱い切り捨てることはしないで、生地端をそのままジーンズの脇線として使用した。労働着のサスペンダーを使ったオーバーパンツとして着用のため型紙も直線がよく、デニムの端の赤いライ(耳)を利用した合理的なパンツができあがった。現代では、このようなジーンズは近代的工程の産物ではないが、却って古い良き時代のジーンズリバイバルとして「復刻版」として再び生産されるようになった。当然ロールアップして裏を見せる穿き方が着こなしのポイントである。



(1) ポケット(Pocket)

●ウエスタンポケット(Western pocket)

“フロンティアポケット”と呼ばれているもの。クラシックジーンズのポケットはすべて、このデザイン。

●ウエスタンフラップポケット(Western flap pocket)

ウエスタンシャツ特有の変わりフラップポケットを指す。変形フラップには、扇型、二つ山、三つ山、変型扇型などがある。

●ウォッチポケット(Watch pocket)

元来は懐中時計を入れるためのポケットとして考案された小型ポケットだが、今では小銭など小物を入れるものになってきている。

●L ポケット(L pocket)

エル型のフロントポケットのこと。

●カーゴ(バッグ)ポケット(Cargo bag pocket)

丁度、バックの脇に見られるような折りたたみを、特徴としたもの。ゴルフスラックスのポケットに、このデザインが多い。

●サファリポケット(Safari pocket)

サファリジャケットのポケットに見られるような、フラップ付きのプリーツポケットをジーンズに付けたもの。

●シャーリングトップポケット(Shearing top pocket)

ゴム糸で布地を縫い縮めてヒダを出すことをシャーリングといい、ポケットの上端をシャーリングしたポケットのこと。

●スランテッドポケット(Slanted pocket)

スラントとは「斜めの」「傾斜した」の意味。やや斜めにつけられたポケットのこと。スランディングポケットまたはアングルドポケットとも言う。

●パッチポケット(Patch pocket)

貼り付ポケットのことで、その形はさまざまである。

●フォアパッチポケット(Four patch pocket)

普通ジーンズのパッチポケットはバックに2個つけられているだけだが、それと同じものを前にも2

個つけたスタイル。もともとは、フランスのジーンズに多くみられた。1970年代のベルボトムの商品に多数使われた。

●フラップポケット(Flap pocket)

雨ぶたのついたポケットのこと。スポーティなスラックスやシャツに良く似合う。

(2)ライズ(Rise)

股上のこと。股上の浅いものを“ロウ・ライザー”、中間のものを“ミド・ライザー”そして深いものを“ハイ・ライザー”と区別している。

(3)バックヨーク(Back yoke)

ジーンズの特徴の一つ。後の切りかえのこと。これはヒップ周辺をフィットさせるための独得なカットのことで、普通のズボンはダーツをとることで尻まわりをフィットさせている。そのダーツがわりになっているものがヨークというわけ。

●ファーストバックスタイル(First back style)

ヨークの縫い目にポケットを切りこんだスタイル。

(4)フライフロント(Fly front)

ジーンズの前合わせの部分、フロントフライ。

●ボタンフライ(Button fly)

ボタンでとめたもの。

●ジップフライ(Zipper fly)

ジッパーでとめたもの。

●レースフライ(Lace fly)

ひも止め式のもの。

(5)ベルトループ(Belt loop)

バンド通しのこと。

●レギュラーループ(Regular loop)

普通のベルト通しの輪。

●ダンナーループ(Tunnel loop)

野球のユニフォームに見られるような幅広のベルト通し。

●Xループ(X loop)

X字型のループ。ファンシージーンズにときどき見られる。

●ナロループ(Narrow loop)

細いベルト(スキニーベルト)を通すためにつけられた細いループ。

●ハンマーループ(Hammer loop)

ワークジーンズ、オーバーオールにみられるディテール。後左ポケットの下と、脇縫いにはさみ込んだ共布のループ。もともと、大工さんがハンマーをかけるためにデザインされたものである。

(6) ベルト(Belt)

●ウエスタンベルト(Western belt)

アメリカ西部のカウボーイが用いたベルト。革に模様を細工してあり、幅広で大きいバックルが特長的。

●サスペンダー

通常「ズボン吊(つり)」のこと。腹部から両肩を超えて背中まで、ズボンのずり落ちを支える目的の一对のベルト(吊りひも)。ズボン(ジーンズ)に連続し同じ生地または別のゴムなどの材料が使用される。

(7) リベット

クラシックなジーンズのポケットの端に打たれている、銅製のビョウのことで、ポケット部のほころびを防ぐためのカンヌキがわりに使われたもので、正しくは“銅製のリベット”(銅製のビョウ)と呼ばれている。

(8) レザー

●オイルチケット(Oil ticket)

油に浸した皮のことをオイルレザーというが、これにブランド名ロットナンバー(整理番号)ランドリーインストラクション(洗濯注意)ウエストサイズなどを焼きごてで表示したもの。通常、ジーンズの後の右ポケットの上に付けられる。

●ネックドレザー(Necked leather)

飛行士とかオートレーサーなどが着ている「レザージャック」に見られるような、あまりつやもなく、染色されていない生の表皮のこと。

●バーニッシュドレザー(Varnished leather)

バーニッシュには「ニスを塗る」の意味。ニスを塗って光らせ仕上げの表皮のこと。

4. トップスの用語

ジーンズ・トップスに関する用語は次の通り。

●アイクジャケット(Ike jacket)

第二次大戦中に、主として米陸軍に着用されたジャケットの一種。衿はノッチドカラー、ウエストに幅広のバンドが付いた丈の短いジャンパー。尚、時の連合軍総司令官、アイゼンハワーが愛用していたことから、アイクジャケットと呼ばれている。(=バトルジャケット)

●アーミーシャツ(Army shirt)

軍隊調のヘビーデューティなシャツ。なかでもアメリカ陸軍のそれをいうことが多く、アーミールック

や GI ルックのための重要なワードローブに数えられる。チノクロスと呼ばれる丈夫な厚手綾織のコットン地を使い、色はおおむねカーキ色。エポーレット、胸のパッチ&フラップポケットといったデザインが特徴。若ものたちの間では、ほんものの中古品を着るのがイキとされている。

●アイビエーターズコート(Aviators coat)

アイビエーターとは飛行士とか飛行家のことで、その飛行服からヒントを得たアウターコートを指す。デザインの特徴としては、傾斜をもたせた打ち合わせ、ジッパーによるアクセント、それに毛皮つきの衿などが挙げられる。

●アランセーター (Aran sweater)

フィッシャーマンセーターの一種。アイルランドの西部、ゴルウェイ湾に浮かぶアラン諸島の漁師が着用したのが始まり。ウールの生成りの糸を用い、無地の立体的な凹凸が、アランセーターの基本。海水をはじき(未脱脂の糸使用)、毛足をからませて空気を通さない。いずれも極寒の自然条件に耐える工夫。

●インオアアウターシャツ (In or outer shirt)

スラックスに突っこんでも、外に出してもどちらでも着られるスポーツシャツの総称。ディテール・デザインはさまざまだが、共通しているのは裾のドレスシャツのようなテイル(尾)がなく、短い丈になっていることと脇にスリットがあげられていること。

(例)アロハシャツ、インアンドアウター (In and outer)とも言う。

●ウエスタンシャツ (Western shirt)

アメリカ西部のカウボーイたちの服装に見られる。ファンシーなディテール・デザインを特徴としており、それは山型のヨーク(胸から背中にかけての切替)、切替を入れたカウス、W 型のポケットフラップに顕著にみられる。生地はデニム、ダンガリーなど厚手のものからシーチング、ガーゼクロスにいたる軽いものまでさまざまであり、機能性を第一に考えたアウターシャツとなっている。ドットボタン(鋸状の打ちつけメタルボタン)がつけられているのも機能性からきているわけである。ウエスタンルックやワークルックの流行で一躍脚光を浴び、いまではさまざまな分野にファッション衣料として着られている。



●ウエスタンショートジャック (Western short jacks)

俗に「ヒップスター」などとも言われるように、ちょうど着丈がヒップにとどく程度の長さをもったジャ

ンパーを言い、主にデニムで作られる。ディテール、デザインの特徴としては胸の部分につけられたヨークと対照的な色系によるステッチワークである。



●エスニックシャツ (Ethnic shirt)

「人種的な・民族的な・種族的な」また「異邦人の・異教徒の」といった意味。つまり、民族調の柄、色で仕立てたシャツ。

● オイルドセーター (Oiled sweater)

セーター本来の機能性と持ち味を 100%発揮し、もともとセーターらしいセーターとされるクラシッくなクルーネックセーター。羊毛脂を脱脂せず、防水性、保温性、防湿性を第一に考えてつくられていることからこの名がある。

●カットソー (Cut and sewn)

正しくは「カットアンドソーン」、ニット(編み物)の生地を「裁断」した後に「縫製」すること。また、そのようにして製造されたTシャツなどの製品のこと。セーターのように「糸」から直接「製品」に転ずる製品と異なる工程意識からの言語。

●キャバリーシャツ (Cavalry shirt)

キャバリーマン、つまり「騎兵」の着ているシャツからヒントを得た、胸に当て布を取りつけたアウターシャツを言う。別にビブフロントシャツとも呼んでいる。

●コンボイコート (Convoy coat)

第二次大戦中、アメリカの爆撃機の飛行士たちが用いたコートの中で、フードとダブルクロージャー(内側ジッパー、外側ボタンドめ)フロントを特徴としたもの、多くは綿で作られ、とくに注目すべきなのはスプリットフードにある。これは中央にジッパーを配して開閉できるようになっており、もちろん身頃からの取りはずしも可能。

●サファリコート (Safari coat)

サファリジャケットの正式名称。また、サファリジャケットのディテールを特徴としたコートのことをいう場合もある。本来アフリカ狩猟探検隊のために開発されたものであるが、現在ではその機能性あふれるデザインから、カジュアルなウェアとして一般的に用いられる。



●C.P.O.アウターシャツ(C.P.O. outer shirt)

C.P.O.とは Chief Petty Officer の略で下士官をさす言葉。その下士官が着ているユニフォームからヒントを得て作られたのが、おなじみの C.P.O.シャツである。このシャツはメルトンの無地や、赤と黒、黒と白、グレーとイエローなどの配色による大格子柄ウールだけでなくデニムやキャンバス、その他のコットン素材でも作られている。

●G ジャン (Denim jacket)

通常、G ジャンといわれているものは、デニムを使ったショートジャケットを指すことが多い。まち縫いを多用し、機能的な強度を保ち、乗馬の際の転倒などの身体の保護に使われたものである。近年ではボアや裏地を付与したものも多い。

●スエットシャツ(Sweat shirt)

スエットとは「汗」のことで、吸汗機能のために考えられたシャツである。素材は通常、綿メリヤスで裏をパイル状に起毛しているため、俗称「裏毛」とか「裏毛パイル」といわれる。最近、この裏毛素材がスエットシャツのみならず、ジョギングパンツやトレーナー、場合によればアウタ等、多目的に用いられ、その安価で機能的、かつファッションナブルな特色により大いに愛用されているホット素材である。

●スタジアムジャンパー(Stadium jumper)

通称スタジャン。本来の野球選手のベンチ・ウェアであり、登場は 16 年。ただしファッションとしてのデビューは 30 年代も後半になってからであり、流行は 50 年代に至って大流行。デザインは様々だが、普通身頃と袖が別色になっており、胸や背中に所属団体名、イニシャルなどのマークを配する。衿、袖口、裾はライン入りのジャージー、フロントはスナップボタン留め、ポケットは身頃の色と対照的な縁取り式のもの一般的なデザイン。素材は再生ウールのメルトンタイプが本格で、袖(または身頃)に革を用いたものが多い。類語ベースボールジャケット、グランドジャケット、ツートンジャケット、フットボールジャケットなど。



● **スパニッシュコート (Spanish coat) = ゴール・コート (Goal coat)**

ストレートのホワイteeジーンズやブルージーンズにピッタリのカジュアルコート。生地は普通コール天ないしはコットンスエードが多く用いられ、裏地にはタータンウールとかパイルファブリック(ボア)を張りつけたヒザ上丈くらいのアウターコートである。このコートの大きな特徴はニットジャージを使った大きな衿にあり、この衿を「スパニッシュカラー」と呼んでいるところから、スパニッシュコートあるいはスパニーコートなどとも呼ばれている。

● **ダムジャケット (Dumb jacket)**

ダムには「ばかな」「まぬけな」の意味があるが、つまりは街のチンピラが、好んで着るようなピカピカした黒の皮ジャンパーをさしている。また、メルトンのグランドジャンパーに衿をつけたようなものも、ときどき「ダムジャケット」と呼ばれる。

● **タンクトップ (Tank-top)**

ランニングシャツスタイルのニットシャツのこと。最近では A シャツなどとも呼んでいる。

● **チンプジャケット (Chimp jacket)**

毛足の長いパイルファブリック(ボア)で作ったジャンパーのこと。一見、チンパンジーのぬいぐるみの感じがするところから、特にアメリカで使われている。

● **ティシャツ (T shirt)**

もともと軍隊で肌着として着られていたものが広がり、いわゆる丸首肌着として定着したが、一方、その外衣化が始まり、いまやカジュアルなアウターシャツの代表的存在として定着したのが、この T シャツ。原型は丸首、半袖で広げると「T 字型」になることからこの名がある。デザインの変化や種類も多く、いまでは夏はおろか、1 年中若ものたちに愛用されるポピュラーなシャツとなっている。

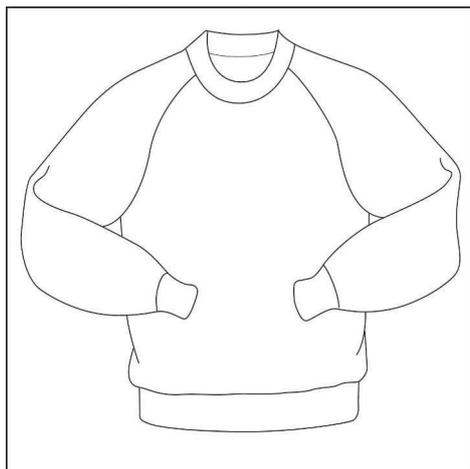
● **トゥコート (Tow coat)**

いわゆるダッフルコート、フーデッドコートの別名。アイルランドやノルウェーの漁師が引き船用に着ていたところからこの名がある。

● **トレーナー (Trainer)**

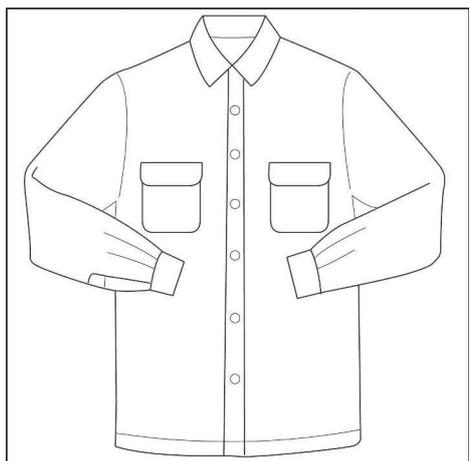
スポーツ選手が競技の前後にはおる T シャツ型のスポーツウェア。アイビー調の霜降りグレーのものが代表的とされ、コットンジャージのほか、テリークロス(タオル地)などで作られる。スウェットシャツというのが正確な名称で、トレーナーは日本でつけられたネーミング。最近ではフードつきとし

たものもあり、これはフーデッドトレーナーと呼ばれる。



●ネルシャツ (Flannel shirt)

フランネルで作られたシャツの総称。ネルはフランネル Flannel の前半分が省略されてできた日本的な略語。ちなみにフラノは後半分が省略されたわけであり、ともに日本でだけしか通用しない言葉である。



●パーカ (パルカ) (Parka)

フードつきとしたかぶり式のショートジャケット。本来これはロシア語で毛皮の上着とか、エスキモー人の防寒服を意味したが、現在ではアノラックやヤッケと同じ意味で用いられている。特にパイルフアブリックでつくられたビーチウェアをいうことが多く、これには、ヨッティングパーカ(ヨットパーカ)などがある。Tシャツやトレーナの延長上に位置するものとして人気が高い。

●ファーマーシャツ (Farmer shirt)

お百姓さんの着るようなシャツという意味で、素朴な雰囲気とシンプルな形を特徴とするシャツを言う。多くは粗末な感じのコットン地でつくられ、シルエットもルーズ、ディテールもスタンドカラーやバンドカフスといったものになっている。



● フィールドジャケット (Field jacket)

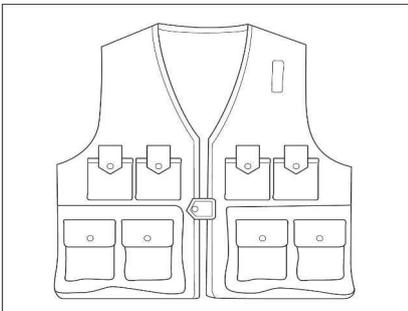
荒野、原野を背景としたスポーツの上衣のことで、とくに英国で行われるハンティング、バードウォッチング、フィッシング、ホースライディングといったスポーツ上衣をきる例が多い。

●フィッシャマンセーター (Fisherman sweater)

本来、北欧アイルランドの労働着として伝統的に愛用されたものであり、羊毛をいったん脱脂し、さらにアザラシの脂を改めて加え、水をはじき断熱性機能を付与したもので英北部の漁民が愛用していた。したがって本来、生成が通常であるが、近代のものは着色したものが多い、編み目も独特の縄目模様のものが有名である。

●フィッシングベスト (Fishing Vest)

釣り人用のヘビーデューティなベスト。釣り道具小物などを入れるためのポケットがたくさんついているもの。丈は短く、ウエストに達しない。アウターウェアファッションとしても用いられる。



●フレンチワーキングシャツ (French working shirt)

フランスの農民たちがよく着ているワークシャツで、それにモチーフを得たシャツを意味している。特徴は左右に3個ずつ計6個ついているマルチポケット、タブ付きの袖、ジャケットレングス(上着丈)など。生地はザックリした平織ホームспанコットンを始め、コットンベルベット、デニム、ガーゼクロス、コットンギャバジンなどいろんな生地が使われる。

●フリースジャケット (Fleece jacket)

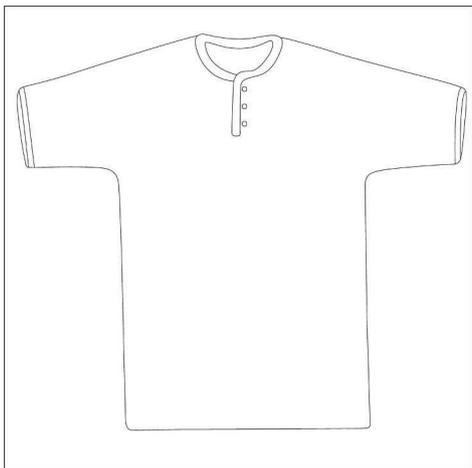
本来は羊の毛を刈り取るという意味。又は刈り取られた羊毛状の生地などをフリースと称した。近年新鋭の織物機械で、ソフトでかさ高な素材が作られるようになった。素材もポリエステル糸となり、軽くて、ソフト、暖かでしかも大量生産により驚くほど安価な冬用ジャケット、ベスト素材として普及している。

●ベースボールシャツ (Baseball shirt)

ベースボールジャンパー (グランドジャック) からアイデアを借りたシャツジャックのこと。つまりベースボールジャンパーの袖口や裾口に見られるニットジャージをシャツの袖口と裾口に応用したもの。バギー・トップスの代表格。

●ヘンリーネックシャツ (Henley neck shirt)

正しくはヘンリーレガッタシャツと言う。テムズ河のヘンリーレガッタに因んでいる。首の部分がパイピングを施した独特のスタイルになっている。通常、天竺素材のニットで作られる。



●ボーリングシャツ (Bowling shirt)

ボーリングシャツは特に 1950 年代初期にアメリカで流行したシャツ。正確には「U.S.ボーリングシャツ」と呼ばれる。これは、ほとんどがツートーン (2 色使い) で、背中にはプリーツをとったり刺しゅうを施したりした派手なデザインを特徴としている。別名、「スーベニアシャツ」。

●ボンバージャケット (Bomber jacket)

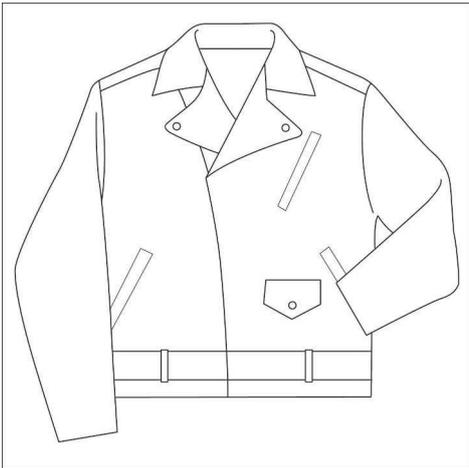
第二次大戦の時、B25、B24、B17、B29 などの爆撃兵たちの着ていたようなジャンパーのこと。オリジナルは光沢のある赤茶色の表革に生成色のボアを張りつけ、前はジッパーとスナップボタンで二重になったウエストレングスのジャンパーであった。

●マッキノオーズ (Mackinaws)

マッキノオーコート の略称。マッキノオープレードと呼ばれる大格子柄入りの毛布で作られたベルト付、ショールカラー、ボックスプリーツなどを特徴とする。尚、マッキノオーとは、アメリカ・ミシガン州の地名からとったと言われている。

●ライダージャケット (Rider jacket)

オートバイに乗るときのための軽快なジャンパー。黒表革のオートバイ乗り用のジャンパー。危険性防止という点から機能性、第一につくられている。裾口のベルト留めと、斜めにつけられたジッパーフロントなどが特徴的。最近ではオートバイブームもあって、ほんもののライダージャケットを街着に転用したり、ファッション化したものがある。



●ランチコート(Ranch coat)

ランチとは「牧場」、または「牧童」のこと。カウボーイたちが着ているムトンの1枚皮で作った防寒用コートをさす。最近ではコットンスエードで作られたものが目立つ。

●ランチジャック(Ranch jack)

ランチコートの丈をウエスト丈くらいでカットしたようなショートジャックを言う。素材はシープスキン、ムトンなどが本格的だが、コットンスエードやコール天などでも作られている。型はシングル、ダブルのいずれもあるが、ボタンは決まって皮ボタンを使用している。

●ランバージャック(Lumber jack)

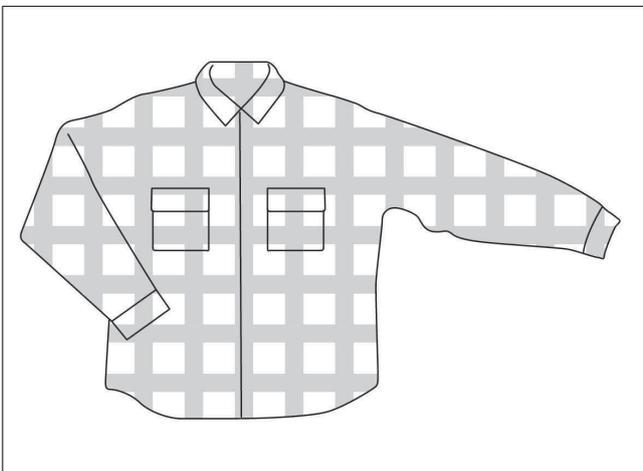
ランバーは木材の意味。北アメリカやカナダの木こりたちが森林ばっさいの折に着たジャケット。素材は、明るく、派手な色使いの大格子柄ウールが多い。

●ランバージャックシャツ(Lumber jack shirt)

木こりが着ているような派手な格子柄ウールで作ったスポーツシャツを言う。衿はふつうオープンカラー、ポケットは両脇につき、フラップつきを特徴としたものが多い。

●ワークシャツ(Work shirt)

仕事用のシャツと直訳されるが、そうしたイメージを持つ素朴なフィーリングのスポーツシャツを意味する。とって本来の仕事用シャツを含まないわけではない。多くはウール、コットン、フランネル、デニムなどを用いた厚手のアウターシャツでワークルックの演出には欠かせない。格子柄のウールシャツや綿ネルシャツ、ダンガリーシャツやファーマーシャツといったところが代表的なもの。



5. グッズ・アクセサリーの用語

●アーミーミュージケットバック (Army musette bag)

陸軍の野戦用に使われていた布製の小さなショルダーバックが元祖。丈夫なキャンバス地で作られ、カーキ色とかダークグリーンが多い。

●アンクルブーツ (Ankle boots)

くるぶしまでの深さのブーツを総称して言う。

●ウェリントンブーツ (Wellington boots)

ヒザ下くらいの深さのロングブーツのことで、普通ソフトなレザーで作られる。ロングブーツのうちでも最もシンプルな型として知られているが、このブーツはワーテルローの戦いで、ナポレオンを破ったイギリスのアーサー・ウェズリー将軍(後のウェリントン公)の名に因んで名付けられたもの。ジョッキーブーツやトップブーツのように折り返し(ターンオーバートップ)がないところが大きな特徴で、色はタンブラウンが一般的。

●カウボーイハット (Cowboy hat)

アメリカ西部のカウボーイがかぶった帽子。ツバが広く帽子のてっぺんに折り目がつけてあるのが特徴。

●カルソン (Calçón 仏)

足をぴったりと覆うパンツまたはタイツ。日本では一時スパッツと呼ばれていた。

●クルーソックス (Crew socks)

スポーツ・カジュアル向きのソックスの一つ。厚手のリブ編みで、はき口に入れたラインが特徴。

●ジヨドファーブーツ (Jodhpur boots)

乗馬用長ズボンの下に履く靴を言う。特徴は、クリスクロスストラップと呼ばれる細い皮ヒモを巻きつけるようにして、バックル止めにしたくるぶしくらいまでの、いわゆるアンクルブーツスタイル。

●スニーカー (Sneaker)

キャンバス地で作られたゴム底のスポーティな靴、スエードのものもある。ジーンズにはぴったり。スニークとはこそこそ行くという意味で、歩いても音がしないことから、こう呼ばれるようになった。

●デイパック (Daypack)

リュックサック型のバックのこと。日帰り用バックという意味からきたもの。もとはサイクリング用であったが、アメリカの若者達の間で大流行し、ファッション化した。素材はキャンバス地、ナイロン等が多い。

●バンダナ (Bandana)

ネックチーフの一種、カウボーイがほこりよけに使ったもので、絞り染め柄を特長とする。

●ワークブーツ (Work boots)

作業ブーツのことだが、現在ではカジュアルな服装に合わせてタウンブーツとしても履かれている。底が厚く、歩きやすいブーツで、深さはくるぶしの上までやふくらはぎの真ん中くらいまでのものが多い。

Chapter II ジーンズ生産に於ける主な用語

1. 企画・設計

■パターン

衣服の縫製のため、布地を体型各部位の形に合わせて裁断して縫い合わせるが、その体型に適切な各位の形を紙上に表現した図形をパターンといい、それを作る作業のことをパターンメイキングと言う。

■原型

衣服を作るとき、基本となるパターンのこと。

■工業用パターン

そのまま裁断縫製できるように本番生産を目的としたパターン。工場設備及び技術レベルに適し、品質の維持、生産性、加工費などのバランスがとれたもの。

■マスターパターン

グレーディングのもとになる基準サイズのパターンのことを言う。

■型紙

パターンを紙等に原寸大に表したもの。

■グレーディング

マスターパターンを各種サイズのパターンに拡大・縮小することで、この拡大・縮小していく技術や過程のことをグレーディングと言う。

■縫い代

布を縫合する場合、その縫い目から布端までの部分、またはその寸法。縫い代の巾、形等は服の目的によってパタンナー自身が決定する。

■仕上り線

パターンの仕上がり及び輪郭を表す線で、上り線とも言う。

■裁ち切り線

仕上り線に縫い代などを加えた線。

■合印

縫い合わせの時、合致させる点を示す印。ノッチとも言う。

■ステッチ線

飾り縫いの位置を表す線。

■地の目線

布のたて方向を表す線。

■基礎線

目的の線を描くための基礎となる線。

■縫製仕様書

企画・設計のデザイン・イメージ通りの製品を作るために、生産工程に移る場合、企画者の適切な指示を与えるものが必要である。この指示するものが縫製仕様書と呼ばれるものである。縫製仕様

書は各企業の特徴を反映して各社独特のものを作成しているが、大体、記入事項は次のようなものが挙げられる。

①発注元会社名、発注先工場名、担当者名、指示年月日 ②製品の種類(品番、パターン No.、服種、サイズ展開など) ③デザイン画(前面、後面、部分的な指示がある場合はその箇所) ④製品分解(パターンリスト、各パーツ名の詳細) ⑤サイズの明細(サイズ別の必要箇所の仕上がり寸法) ⑥使用生地情報(表地、裏地、芯地など品番、色番、混用率、生地幅) ⑦生地サンプル(色目確認のため、各色揃える) ⑧生地に関する縫製上の注意点 ⑨裁断指示(毛並み方向や延反方法、柄合せなど) ⑩副資材に関する情報 ⑪使用機器(特殊ミシンやミシン針や運針数) ⑫仕様の指示(パーツ縫い部分細部の指示) ⑬品質表示、取り扱い絵表示、既製衣料品のサイズ表示注意タグなど ⑭仕上げ状態の指示 ⑮納期、納品の指示

2. 生産

2.1 縫製準備工程

■検反

搬入された原反を縫製工程に移す前に先立って、原反の巾・長さ・色むら・キズなどを検査すること。検反方法は、検反機を使い流し検反と人手を使うめぐり検反がある。

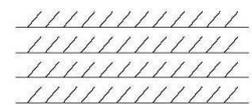
■延反

延反とは、各パーツに裁断するために、原反にテンションを掛けないでしわをなくし、地の目を揃えて一定条件で積み重ね平らに延ばす作業のことである。延反時には、強く引っ張らず、必要に応じては24～48時間放反する。延反方法の種類としては次のようなものがある。

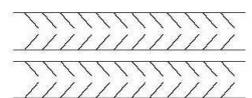
①折り返し延反・・・延反する長さに対して往復した状態にする延反で、一般的に広く採用されている。



②一方向延反・・・生地の毛並みの方向を同じ方向に揃えて延反する方法で、生地の表裏がはっきりしているものや柄や毛羽に方向性があるものに行う。

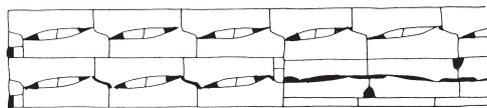


③中表対向延反・・・模様柄、毛足のある生地の場合に採用され、生地を表が中側にあり、対向したように延反する。



■マーキング

所定の生地幅内に必要なパーツを合理的に、経済的に配置する作業のことをマーキング(型入れ)という。

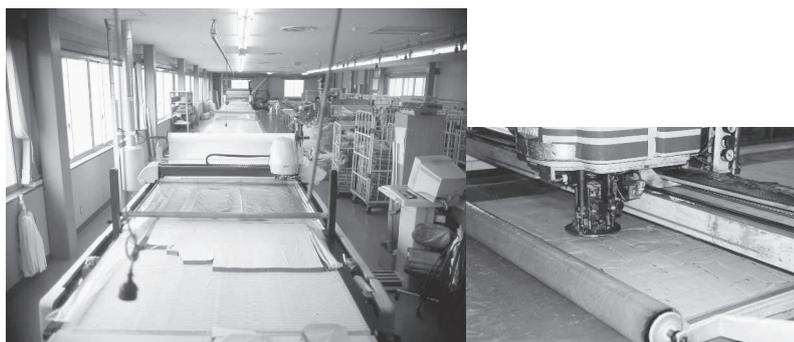


マーキング

■裁断

裁断とは生地を目的の形や大きさに切ることで、量産では延反された上にマーカシートをのせ、裁断機を用いて各パーツに切り離していく。積み重ねた生地は裁断ずれを起しやすく、裁断ずれを起したパーツで縫製に移れば、もちろん製品の品質に影響が出てくる。このためクリップなどを用いて裁断ずれしないようにしなければならない。裁断機の種類には、丸刃裁断機(曲線裁ちには向かない)、たて刃裁断機(一般的にたて刃裁断機がよく使われ、刃先を自由に選択することで様々な生地に対応できる)、バンドナイフ裁断機、油圧式打抜き裁断機(金型使用)、CAM裁断機(レプシロナイフ、レーザ等)がある。

現在では、アパレルCADを用いたマーキングからデータをそのままアパレルCAMに移し裁断を自動で行い、手作業での裁断に比べ生産性・正確性は格段に向上している。



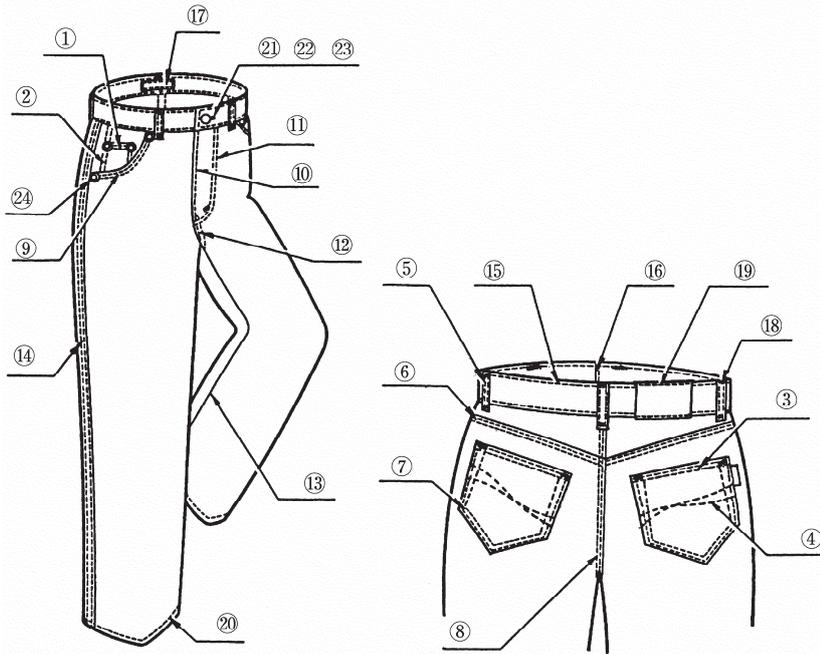
自動裁断機(CAM)

2.2 縫製

ジーンズ縫製の特徴は、「ヨーク」という山はぎで立体を構成することで全体的に直裁し、直線縫いを多くして簡便性・機能性を持たせている。そして、「巻き縫い」「2本針」などで布地の縫合性を強固にし、さらにはデニムの厚みや丈夫さにマッチするようネオバボタンやリベット等の金属の附属を用い、またジッパーや縫糸も太いものを使用している。

ジーンズの縫製工程は、一般的に部品工程、後身頃工程、前身頃工程、組立工程からなる。

製品図



[部品工程]

コインポケット(ウォッチポケット)口三つ巻縫い-①/コインポケット端折りアイロン/脇ポケット向布にコインポケット付け縫い(右側のみ)-②/脇ポケット向布端ロック/脇ポケット袋布に脇ポケット向布付け縫い/脇ポケット袋縫い/脇ポケット袋返し/脇ポケット袋ステッチ/前立端ロック/前立にファスナー付け縫い/天狗端ロック/後ポケット口縫い-③/後ポケット飾り縫い-④/ブランドラベル切り・折り/ベルトループ作り-⑤

[後身頃工程]

ヨーク付け縫い-⑥/後ポケット付け-⑦/尻合せ縫い-⑧

[前身頃工程]

脇ポケット付け縫い/脇ポケットロステッチ-⑨/前立付け縫い/前立コバステッチ-⑩/前立ステッチ-⑪/天狗付け縫い/小股縫い-⑫

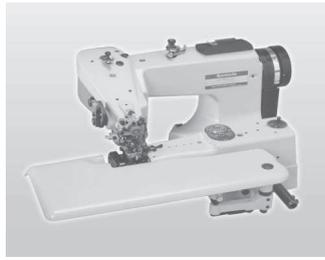
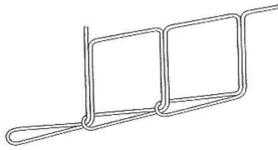
[組立工程]

内股合せ縫い-⑬/脇合せ縫い-⑭/腰ベルト付け縫い-⑮/腰ベルト端切り・折り/腰ベルト端縫い-⑯/ブランドラベル付け-⑰/ベルトループ印入れ/ベルトループ付け-⑱/革ラベル付け-⑲/裾三つ巻縫い-⑳/前立閉止/ボタン印入れ-㉑/鳩目穴かがり-㉒/メタルボタン打ち-㉓/脇・コインポケット口・リベット打ち-㉔

【ジーンズ縫製用語】

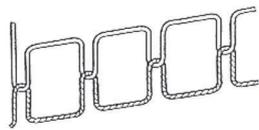
■単環縫い

1本の針糸が鎖状に絡んで縫い目を形成する。縫い目に伸縮性があるが、縫い終わりや縫い目飛びにより、容易に縫い目が解けるので注意。



■本縫い

1本の針糸(上糸)と1本のボビン糸(下糸)の2本の糸を布の中央で絡み合わせて縫い目を形成する。縫い目の伸びが少ないため、伸びのある生地には向かず、織物に多用されている。また、下糸交換が必要である。

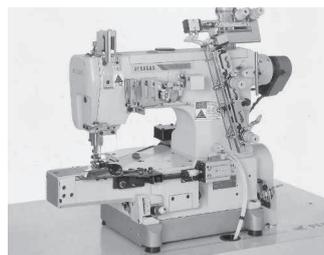
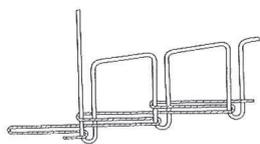


■千鳥縫い

千鳥縫い(ジグザグ縫い)は本縫いが直線ではなく、ジグザグ模様を形成したものである。ある程度は生地が伸びても縫い目が追従できる。

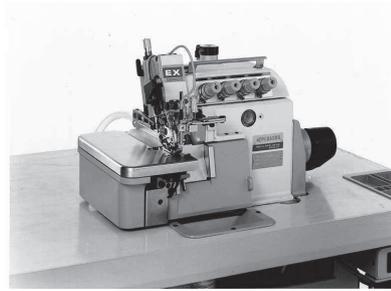
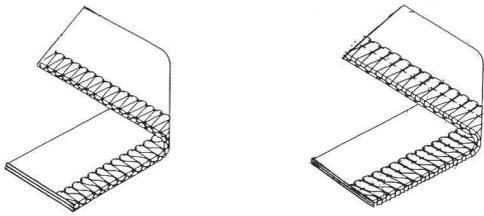
■二重環縫い

単環縫いと異なるのは、針糸(上糸)にルーパー糸(下糸)が二重に交鎖して縫い目を形成していることである。縫い目に伸縮性があり、単環縫いに比べてほつれにくい。環縫いであるため本縫いよりはほつれやすくなる。単環縫い、二重環縫い、縁かがり縫い、偏平縫いといった環縫い系はいずれも縫い終わりから縫い始めに向かってほつれるため、糸切れや縫い目飛びには注意すること。本縫いと比べ下糸の交換が必要ないため、本縫いによって用いられることもある。



■縁かがり縫い(オーバーロック)

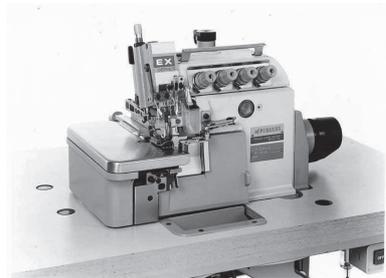
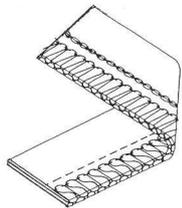
針糸とルーパー糸が互いに絡み合いながら布のふちを越えて縫い目を形成する。ミシンにメスが付いており、裁ち目端をカットしながら、裁ち目がほつれないように裁ち端を縫う。糸量は本縫いや環縫いと比べて多く、縫い目は伸縮性に富んでいる。オーバーロックには1本針オーバーロックと2本針オーバーロックがある。前者は1本針3本糸で縫い目を形成しており、糸切れによって簡単にほつれる特徴がある。後者は2本針4本糸で縫い目を形成しており、1本針オーバーロックよりも糸切れしにくい。縫い糸消費量が多い特徴がある。サージング(裁ち目かがり)や裾引き縫い、ニット製品の縫製に使用される。



1 本針オーバーロック 2 本針オーバーロック

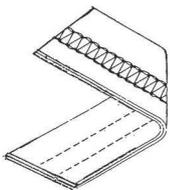
■安全縫い(インターロック)

2本針5本糸で縫い目を形成。地縫い(二重環縫い) + 裁ち目かがり(縁かがり縫い)の独立した2種類の縫い目が同時に形成され、強度が必要な箇所に用いられる。ブラウスの脇や袖、ジーンズの内股などに使用。



■偏平縫い(フラットシーム)

片面、両面飾りミシンで縫い目が形成される。2本針3本糸(片面飾り)、2本針4本糸(両面飾り)などがある。縫い目に伸縮性があり、丈夫でフラットな縫い目を形成するが、糸量が多く必要である。縫い合せ以外にも飾り縫いとしても用いられる。



■地縫い

2枚以上の布地を中表に合わせ、裏の方から一緒に縫い合わせる一般的な縫い。

■割り縫い

中表にして縫合し、縫い代を左右に割る。



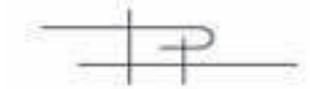
■割り伏せ縫い

割り縫いした縫い代の両側にステッチをかける。]



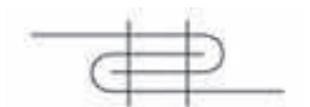
■平伏せ縫い

中表に地縫いした後、縫い代が起きないように片方に倒して押しえミシンをかける。片倒し縫いともいう。



■両伏せ縫い

布端を両方とも巻きこみ見えないようにして端ミシンで縫合する。タコ巻ともいう。



■巻き縫い

布地の端を出来上がり線で少し折り返し、内側に巻き込むように縫い合わせる。三つ巻き縫い、合せ三つ巻き縫い、ラップ巻き縫い、太巻き縫いなどがある。

■裁ち目かがり

布端をジグザグ縫いやオーバーロックで糸でかかる。

■飾り縫い

縫い構成が装飾を主とした縫い、また布地の表にでる縫い目の線が飾りとして用いられる縫い方を言う。

■かんぬき止め

縫い目がほどけやすい箇所やポケットなどのあきを止めた部分を補強するための縫いで、かん止め(門止め)とも言う。

■すそ縫い

裾の部分を縫うこと。

■ヘミング

裾の部分を折り返して縫い止めること。

■穴かがり

穴状になった部分をほどけないようにかがり始末する縫いを言う。

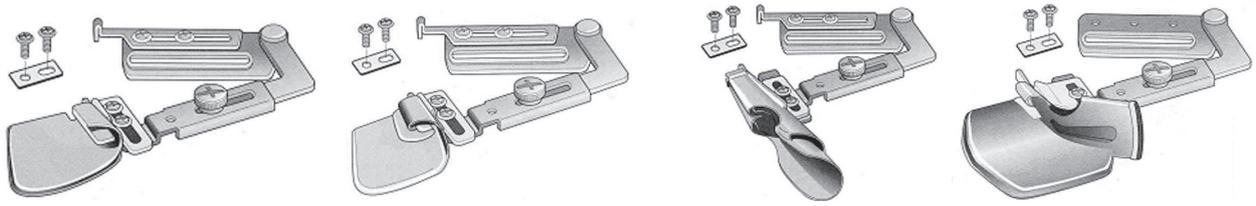
■はとめ穴かがり

はと(鳩)の目部をかがる縫い。

■アタッチメント

アタッチメントの定義を簡単に言えば、オペレーターの縫製技能の習熟度に関係なく簡単に縫製できることと、作業工程が省略できる(複数の工程を1工程にする)ことが挙げられる。その種類はゲージセット(押し金や針板、送り歯等)関係、定規関係、巻具関係、装置関係と多種多様である。巻具関係のアタッチメントは①フェラー(2ツ巻ラップ)、②ヘマー(3ツ巻ラップ)、③フォルダー、

④バインダーがある。



①上巻き2ツ巻きラップ ②回転3ツ巻きラップ ③紐折りラップ ④4ツ折りバインダー

■プレス

プレスとは、電熱やスチームなどを利用して繊維を変形させ(せん断変形)、加圧することで立体成形することである。つまり、プレス工程は、まず生地を熱と水分を与えて変形しやすい状態にした(スチーム)後、加圧して所定の形状に成形し(プレス)、熱と水分を短時間に除去して、その形状を固定する(バキューム)というサイクルの繰り返りで、繊維のセット性を理解することが望まれる。

■中間プレス

中間プレスは製造工程中に行うプレスで、その目的は縫い目のセットで、くせ取り(いせ込み、伸ばし)で平面を立体成形化し、縫い目割りでダーツをセットすることである。

■仕上げプレス

製造工程の最終に行うプレスで、縫製品を効率よくシルエットを立体的に整え、外観保持力を高める。

■ミシン糸

衣料用縫糸は家庭用と工業用に分かれ、主な工業用としてはポリエステルフィラメント、ポリエステルスパン、ナイロン、ウーリー、T/C コア、その他特殊糸があり、用途によって使い分けされている。ジーンズ用ミシン糸としては、T/C コア、ナイロンコア、カタン、ポリエステルフィラメント、ポリエステルスパン等が用いられている。中でもジーンズ縫製においてはコアヤーン縫糸が用いられ、コアヤーンとは芯糸をコア(core)と呼び、さや状に巻き付けられる部分をシース(sheath)という。一般的なコアヤーンは、コアにはポリエステルフィラメントを用い、シースには高級綿を用いたT/C コアで、いわば天然繊維と合成繊維の利点を生かした縫糸で可縫性能に優れ、また強力面でハードなジーンズの洗い加工にも追従し、複雑な縫い仕様にも対応できる縫糸として期待される。

■ミシン針

工業用ミシン針はミシンや生地の種類によって使い分けされており、また針の選定が縫製の出来ばえを大きく左右する。針番手は幹部サイズを基に決められ、その表示は国によって異なり、日本では幹の太さを番号で表している。

各国別針番手対応表

日本	#4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
①ドイツ	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	90	95
②アメリカ				022		025	027	029	032	034	036	038
③枠の太さ	0.42	0.47	0.52	0.57	0.62	0.67	0.72	0.77	0.82	0.87	0.92	0.97
日本	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	
①ドイツ	100	105	110	120	125	130	140	160	180	200	230	
②アメリカ	040	042	044	048	049		054		078	080	090	
③枠の太さ	1.02	1.07	1.12	1.22	1.27	1.32	1.42	1.62	1.82	2.02	2.30	

①数値は針幹サイズを表す。(1/100mm)

②数値は針幹サイズを表す。(1/100インチ)

③単位：mm

例えば、ジーンズの場合、縫製部位とミシンにより使用されるミシン針は異なるが、一般的に本縫いは#18～#23を用いている。

■ スライドファスナー

スライドファスナーはファスナーとかジッパーと言われているが、世界各国ではいろいろな名称で呼ばれ、例えば英国をはじめ世界ではスライドファスナー、アメリカやオーストラリアをはじめ世界ではジッパー、中米諸国ではシェレス レランパゴス、フランス・ベルギー・エジプト・トルコ・シリアではフェルメチュール アグリシュールといった具合。スライドファスナーの種類は、構成されるエレメント(努歯)の材質により、金属ファスナーと樹脂ファスナーに大別される。現在、ジーンズ用としては丈夫な材質のものが求められ、丹銅(銅と亜鉛の合金)、洋白(銅、亜鉛、ニッケルの合金)といった材質のスライドファスナーが主に使用されている。

2.3 ジーンズ縫製における欠点用語

■ アイロン焼け

プレスやアイロンによる変色又は風合いが硬くなること。

■ 糸のささくれ

糸がささくれていること。

■ 糸玉

布地の裏側へ偶発的に発生する繊維の玉。

■ 糸始末不良

縫い始め、縫い終わりの糸端の切り忘れで、長いもの又は切り残しが不適切なもの。

■ 糸切れ

縫い糸が切れていること。

■ 糸返り

縫い針の貫通時の力によって布の構成糸が回転して裏面の糸が表面に向いて起こる筋。

■ ウォータスポット

水滴あとやしみ抜きあとなどが乾燥後、輪郭の付いたむら又はしみとなって残ったもの。

■織糸ひけ

縫い針、裁断器具などによって織糸の一部が移動して、光沢異状や柄くずれをおこしたものの。

■送り歯きず

布送りのときにできる送り歯のきず。わさびきずともいう。

■片締り

ジグザグ縫いの場合に左右の糸締りが一方の側に片寄ること。

■シームパッカリング

縫い目の近辺に発生する縫いじわがやや規則的に続いたもの。

■地糸切れ

縫製時のミシン針や送り歯によって布の構成糸が切断されること。

■スナッキング

布地をこすったとき、原糸の一部が布地の本体から引っ張り出された状態。

■スラックスの歩き

スラックスをつり上げたとき、両脚部分が重ならないこと。

■タオル目

上糸が連続又は単発で布地の下にループ状に現れるもの。

■チョークマーク

布の表面をこすったり、しわにすることによってできるチョークで書いたような筋又はしわ状のあと。

■縫いずれ

重ね合わせて布地を縫ったときの各々の布地のずれ。

■縫いよたれ

正常に縫われずに縫い目の一部が乱れて縫われているもの。

■縫い外れ

布端を縫うとき、縫い目が布から外れること。

■縫い継ぎ不良

縫い継ぎの先と後の縫い目の間の重なりがないか、少なくてほつれのおそれのあるもの又はその外観不良のもの。

■縫い糸調子不良

縫い目がふぞろい又は上下糸の結節点の位置が偏っていたり、乱れていて見苦しいもの。

■縫い縮み

縫うことによって布地が縮むこと。

■縫い代倒し不良

アイロン、プレスの押さえが甘く、縫い代が十分倒れていないもの又は倒した方向が違っているもの。

■縫い目のごろつき

縫い目又はその付近が盛り上がり、見苦しく違和感のあるもの。

■縫い目のふらつき

直線縫いにおいて、縫い目が正しく直線状にならず不規則になること。

■縫い目ほつれ

縫い糸がほどけているもの。

■縫い目スリップ

縫い目に力がかかったときに、その部分の素材構成糸が動いて縫い目が開いたり、縫い代が抜けること。(縫い目滑脱の同義語)

■縫い目パンク

縫い目に張力がかかったときに、縫い代不足、縫い糸切れなどによって縫い目が外れること。

■縫い目曲がり

縫い目が所定の方角でなく曲がったもの。

■縫い目笑い

糸締まりが悪いため、縫い目に直角方角に引っ張ると縫い目が割れて縫い糸が見えるもの。

■縫い目伸度不良

布地の伸縮に縫い目が対応できないもの。

■ハーフステッチ

パーフェクトステッチとヒッチステッチが混合された縫い目。

■針あとのこり

縫い直し、しつけ縫いなどによって布地糸は損傷していないが、針穴のあとが目立つもの。

■針穴きず

針が通された後のきず。

■パーフェクトステッチ

本縫いにおける正常な縫い目。

■ヒッチステッチ

本縫いにおいて、上糸が1回ねじれて下糸とからみ合い構成される縫い目。

■ピリ

縫い縮み。縫いずれにより縫い目の近辺に部分的に発生する細かいつれ、しわ。

■プレス収縮

プレスやアイロンによって伸縮したもの。

■プレス当たり

(1)布地表面がプレスやアイロンによって目つぶれし、光沢又は色相変化が起こっているもの。テカリともいう。

(2)しん地、縫い代などの重なり部分に段差が見えるもの。

■メス切れ不良

メスの切れ味が悪く、切り口がささくれて見苦しいもの。

■目とび

縫い目の構成において、糸のからみ合いが行われないこと。

■ラン

(1)縫い代又は縫い目から布地組織に横方向へ走った筋又はほつれ。

(2)編み目切断部分からウェール方向に出たはしご状のきず。伝線ともいう。

2.4 製品の検査

■製品検査

製品の検査は、単に製品の良・不良の判別をするだけでなく、検査結果をもとに品質改善のデータとして、また品質管理を進める上で重要である。製品検査は次の観点から行われる。

- ① 寸法検査
- ② 外観検査
- ③ 品質強度検査(工場試験場提出検査)
- ④ PL 法と検針機検査(PL 法はアルファベット編を参照)

※欠陥商品による消費者の被害救済を目的として PL 法(製造物責任法)が施行されている。また、縫製品については、特にお客様に危害を与える恐れのある「ミシン針」「縫針」「金属片」等の混入防止の徹底が特に重要である。

■検針

縫製現場で混入する可能性のある針状物としてミシン針、しつけ針、マチ針、虫ピン、ホッチキス針(釘や針金が発見されることもある)等があり、流通・販売経路では安全ピン(タグ用)、ホッチキス針、虫ピン等がある。これらの中でも、特にミシン針等の残り、マチ針の取り忘れ、ホッチキス針の残り等は管理方法の問題であり、それらを流出させないような管理体制を確立することが重要である。

まず、現場レベルでは縫製ラインで針の本数管理と折れ針の完全復元(完全復元して新針と交換する)が基本であり、検品時に全数を検針機(定期的に感度を確認して調整する)に通して残針を排除することを徹底することで残針率が大幅に減少できる。



コンベヤタイプの検針機

■工程検査(中間検査)

工場内において、半製品を次工程に移動してもよいかを判定する検査で、中間検査とも言う。

■最終検査

出来上がった商品が、製品として要求項目を満たしているかを判定するための検査。

Chapter III ジーンズビジネス関連用語

1. ビジネス用語編

■アイキャッチャー

店頭で注意を引くためジーンズ等の製品に付けて、特徴やサブネーミングを表示する通常紙製の印刷物。

■アイテム

品目、種目、服種。

■アイデンティティ

独自の存在という認識、主体性、独自性、個性。また、同一性、一体感という意味でも用いられる。

■アウトソーシング

業務の一部、あるいは全部を外部に委託することをいう。もともとは人員削減、コスト低減を目的として行われていたが、最近では事業拡大や新規事業進出において、自社の資源を特定の活動に集中させるために活用されている。

■アウトレット

メーカーが季節外れや余剰品、サンプルなどを定価より大幅に安く販売すること。その店をアウトレットショップという。最近では小売企業も手がけることが多い。アウトレット店を集約したショッピングセンターも増加している。

■アソート

英語の「アソートメント」(組み合わせを行うこと)の略。売り先の必要に応じて、服種、品番、色、サイズの組み合わせを行って商品を揃える一連の仕事を言う。

■アパレル

英語の「アパレル」の意味は「身につけるもの、衣服一般(アクセサリを除く)」である。わが国ではアパレルメーカーの意味に使われることも多い。

■アメリカンカジュアル

アメリカの明るい活動的なスタイルを指し、ジーンズ、T シャツ、スポーツウエアなどが中心のカジュアルファッション。略してアメカジと呼ばれる。

■荒利益

粗利益とも言う。商品売上からその仕入れ値(原価、コスト)を引いたもの。売上に対するその比率を荒利(益)率と言う。そこからさらにかかった経費を引いて利益計算は進む。ある一定期間の個々の粗利益(荒利益)の集計金額を決算上の売上総利益と言う。

■アンテナショップ

消費者の動向や新しいトレンドを探る目的の実験店舗。

■委託販売

本来は仕入先から入荷した商品の所有権を移転せずに、いわば預かった形式で販売することを言う。しかし日本の一部の百貨店のように一旦は仕入して名義変えし、一部又は全部支払いを済ませる場合でも、後に返品があり得る場合も俗に委託販売ということが多い。どんな場合でも基本契約の締結が望まれる。「消化仕入」「売上仕入れ」参照。

■イタリアンカジュアル

イタカジとも略して呼ばれ、イタリアのミラノを中心とする都会的なファッション。

■インショップ

百貨店や量販店、ショッピングセンターなどの設備建物のなかで、独立性を保った区画で営業される小売店のこと。

■インポート物

輸入物のこと。独占契約でいわば正規に輸入されたものと、自由な貿易で海外の第三者から入手したもの等がある。

■売上仕入れ(売仕)

小売店などがリスクを回避する目的で、店頭で消費顧客に販売が完了した時点で正式の仕入、名義変更を行うこと。実際の販売実績に見合う仕入れ金額のみが支払い対象となる。

■ウェアリング

英語の wear は着る、着用するの意味。コーディネートやおしゃれセンスなど意図的かつ上手な「着こなし」の意味にも使う。

■売り場効率

店舗の単位面積(平方メートルまたは 3.3 平方メートルすなわち一坪)あたりの年間または月間の売上平均金額高のこと。面積は実質ではなく柱や通路の一部を参入することもある。百貨店、量販店、地域性などによりさまざま。他店との比較で効率が評価される。

■営業利益

粗利益(荒利益)からかかった経費(販売費や一般管理費)をさしひいた残りの利益。さらに営業以外の経費(利息など)を引いて利益計算は進む。

■駅ビル

鉄道会社などが経営する駅構造物。中に各種店舗が入居する。集客力にまさる立地とされる。近年のJRも意欲的に開発。

■エコロジーファッション

エコロジーとは生態学の意味で、自然保護を視野に入れ、無公害の素材を使用した服装や生活様式のこと。

■エスニック

エスニックとは「民族の」「人種の」という意味で、衣服においては民族衣装を指す。

■オープン価格

販売店が独自に小売価格を決める方式。

■改装

店舗の内装、外装を工事などによって変更修正すること。顧客から見た印象を改良し、新たな来店を促す目的が多い。

■外注

外部に注文を発することをいう。

■回転率

通常商品回転率、在庫回転率のこと。所有する在庫(金額)と一定期間(例えば月間)の売上高との比率で算出。

例えば月商 100 万円で在庫が 200 万円なら月 0.5 回の回転といい、在庫月数 2.0 という言い方もする。場所商品、季節、人材などで変動する。資金やリスク効率からは当然回転の高いほうが良い。ジーンズ類はアイテムやサイズ数など多く一般的には低いことが多い。

■買い取り

仕入れる側が後に返品の実行を行わない条件で契約し入荷させる形態。商業道徳では当然のことながら、わが国では返品や交換など小売側からのリスク回避行動が多い。

■掛け率

上代に対する仕入れ価格の比率をいう。

■カジュアルフライデー

ビジネスマンを対象に週末の金曜日を会社でカジュアルな服装のできる日にしようという運動。

■カスタマイゼーション

個客対応の市場戦略をいい、顧客情報、特に行動履歴、購買履歴に関する情報を蓄積することで、その顧客にあった対応をしようとするマーケティング戦略のことである。

■カテゴリーキラー

特定の専門店の力が巨大になり、ある分野の百貨店、スーパーなどのその部門を立ち行かなくしてしまうこと。またその強いほうの専門店をさす。玩具のトイザラス、大手の家電専門店などの例のように同種の売り場分野を「殺し」てしまう、との意味に由来するアメリカ発の用語。

■仮需要

仮需ともいわれ、消費者の実際の需要ではなく、小売店の先行発注などの見かけの需要のこと。

■機会損失

機会ロスともいわれ、需要があるにもかかわらず、品切れなどで販売することができなくなったことで生じた損失のことをいう。

■キーテナント

ショッピングセンターなどで「核」になる存在の個々の小売店。百貨店、大手スーパーなどが一般的だが、最近では有力な専門店(家電、ホームセンター、カジュアル衣料など)もキーテナントとされる。

■季節指数

小売店の売上は年間を通じて一定ではなく、各月、季節によって変動する。一般に2、8月は低く、ゴールデンウィーク、歳末などは高いとされる。

季節指数の例

全国百貨店衣料品売上高の月別構成比
(%、下段は順位)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
97年	9.0 ⑤	6.2 ⑪	11.1 ①	6.9 ⑩	7.6 ⑦	7.2 ⑨	9.0 ⑤	5.9 ⑫	7.6 ⑦	9.7 ③	9.3 ④	10.4 ②
02年	10.0 ①	6.2 ⑪	9.8 ②	8.4 ⑦	8.1 ⑧	7.7 ⑨	8.7 ⑥	5.8 ⑫	7.7 ⑨	9.0 ⑤	9.3 ③	9.3 ③

例えば、1月はバーゲン催事で比率上昇、逆に12月歳末は低下など、年々傾向は変化している。

■既存店

専門店など複数の店舗を持つ場合、その前年度又は過去1ヶ年経過以前に開店していた店舗をいう。新規店が新たな売上げを発現させることは確実であるから、すでに存在していた店舗群だけで、例えば前年に比べて伸長したかどうかを分析する場合に使用する用語。

■客数、客単価

通常客数とはレジに打ち込まれた売上げ回数、実際の入店客数とは異なる。また同じ顧客が二度以上レジに打たれたら2人以上となることもある。客単価とはその人数で割った平均単価。商品単価ではない。季節変動や前年対比で分析される。

■競合店

商圈内において、競っている店舗のこと。

■共同仕入

複数の業者で仕入れをすること。共同で仕入れることで数量も多くなり、それによって取引の条件が有利になる。

■苦情処置、クレーム

小売店やメーカーで、消費者からの商品やサービスに対する苦情を受け、それについて誠意をもって処置することは極めて重要である。他の同種の欠陥商品の回収行動(リコールと言う)、さらに次の商品企画への反省など企業活動を修正改善する教訓材料としての意義が見直されている。専門の対応担当(お客様センター)を設置しより誠実な対応をする企業が増加している。



■クーリングオフ

消費者保護制度の一つで、消費者が商品購入の契約をしても一定期間内であれば無条件で契

約を解除できる制度。

■経常利益

企業の決算上営業利益から経費(販売費、一般管理費)を引いた残りの利益。さらにこのあと営業外の損得(利息等)が引かれる。

■下代

仕入れ価格のこと。

■欠品

発注された商品の一部が品不足や納期遅れで受け渡しできないこと。ジーンズ業界では特定のサイズが揃わないことを特に嫌う。

■現物

現にある商品。売買の目的たる現品。

■コスト

原価、元値、生産費、経費、費用、値段、代価の意味で使われる。

■コスト・パフォーマンス

投入した費用とその効果の比較分析のことで、対比費用効果。

■固定客

一つのきまった店に固定した、来店頻度、購入頻度の高い上客のこと。

■コーディネートルック

洋服やアクセサリ、小物にいたるまで統一された装いのこと。

■コーナー

特定のブランドや商品群をまとめた面積で陳列販売すること。「コーナー展開」などと称する。

■コンセプト

概念、観念、基本的な考え方のことをいう。

■コンテンプラリー

現代の、同時代の、最新のという意味で、時代の流行をとり入れた今日的な(アップデート)ファッション感覚、価値観を指す。

■コンバーター

繊維流通機構において、二次加工メーカーと商社の機能を併せ持つ業者。

■コンペティター

競争相手のことで商圈内の同業者や同じターゲットを狙った同業メーカーなど、競合する相手はコンペティターという。

■在庫回転

回転率の項参照。

■催事

小売店で一定の期間あるテーマのもとで行われる販売活動。優勝セールやシーズン末などのバーゲン、特定の商品を強調促進するキャンペーンなどがある。

■サイズカード

ジーンズ商品は特にウエスト、ヒップなどのサイズフィットの厳密性が要される。店頭や物流段階での視覚による確認のため特にサイズ号数をわかりやすく表示する。この表示の記された紙製などのカードのこと。サイズタグということもある。

■サイズ構成

ある商品の各サイズごとの着数の割合、または実数。例えば発注時に26号(旧26インチ)10着、27号15着・・・というような場合に予測をする場合にもその精度が問題にされる。

■サイズフォロー

在庫のうち特定のサイズが先行して売れて、品切れになるようなときに追加発注を行う。この行為をサイズフォローと称する。

■サイズマーケティング

消費者のジーンズサイズに対する興味や問題意識、例えばヒップがきれいに、脚が細く見えるとかいった課題に力点をおいて商品企画や販売促進などを行うこと。

■差別化

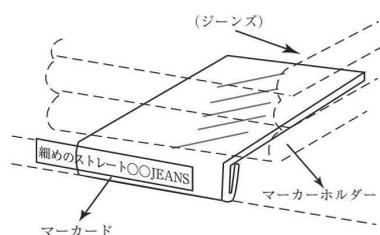
マーケティング用語。自社又は他社に今までにない新しい商品やサービスを企画し特徴を強調すること。

■参考上代

メーカー、問屋が、あらかじめ設定した小売価格のことを参考上代という。

■シェルフマーカ―

「シェルフ」とは棚のこと。ジーンズ商品はたたんでボックスや棚に陳列するため、取り出さなくてもその商品の内容等が記載されたカード状の販売促進物。メーカーからの支給や店手作りのものなどある。



■実需要

実際の需要で、実需とも言う。

■品揃え

一般的には商品を揃えること。最近いわれる「品揃え型」小売とはSPA(別項)やワンブランド店と違い、店側の独自の方針で各種のブランドを複数仕入れて構成することを言う。本来このやり方が専門店の基本であったが、単独のブランドなど、顧客から好まれないという最近の傾向への反動として再評価されている。

■ジャンクジュエリー

身近な廃品やガラクタを利用して作った遊びっぽく意外性のあるアクセサリ。

■ 什器

国語辞典での意味は「日常使用する家具や道具」。小売店などでの移動できる棚、ショーケース、ハンガーなど。

■ 出店

新たに小売店などを開設すること。「開店」の語より特定の場所へ「出る」という意味合いが強い。

■ 消化仕入れ

売上仕入れの項参照。

■ 商品コンセプト

商品の内容や展開についての考え方、またその全体のイメージ、傾向。

■ 商品回転

回転率の項参照。

■ 商品管理

商品の売れ行きを販売数量でつかみ、コントロールすること。

■ 上代

小売価格のこと。

■ スクラップ&ビルド

廃棄し再構築するという意味。古いもの、効率の悪いものを廃して新しいものに置き換えること。工場や店舗などの時にも使う言葉。

■ すそ上げ

工場出荷時にジーンズボトムスの股下の長さを完成していないものを、購買したお客の実寸にあわせて縫い加工で完成させること。各売り場のミシンで即対応するケースが増えている。アメリカなどではメーカー出荷時に複数の股下長であらかじめ完成したものを出荷し売り場で顧客の選択に任せる方法が主流である。わが国ではこの方法は店頭在庫の増加もあって普及は遅れている。

■ スタイリスト

気取り屋、オシャレという意味もあるが、一般的には衣服、室内装飾などについてスタイリングをするスペシャリストのことをいう。例えば、雑誌やファッションショーなどで、衣装やアクセサリを選び、要求されるイメージに合わせてスタイルをつくる人。

■ スタイリング

様式という意味で、姿、形、流行の型をつくることをいう。例えば、服飾業界の場合、色、デザイン、シルエットなどの面から流行をとり入れスタイルを構成すること。

■ ステータス

社会的な地位、身分、状態、情勢の意味。

■ ステータス商品

つまり、商品の機能、用途、価値とは別に、ステータスシンボルを感じさせる、あるいは表現すると思われる商品のことをいう。

■ストリートファッション

街で自然発生的に生まれて流行するファッションのことをいう。その代表的なものとして、ヒッピー、パンク、グランジ、エスニックルックが挙げられる。

■スワッチ

生地などの材質見本のこと。

■製品ライフサイクル

製品が市場に登場してから売れ行きが落ちるまでの過程のことで、一般的には導入期、成長期、成熟期、飽和期、衰退期の5段階に分けられる。

■セルフサービス

顧客自身が自由に商品の選択、運搬などを行う販売方式。

■セレクトショップ

専門店の中でも、特に仕入れ企画の独自性、商品の鮮度や感性に優れている店のこと。どこにもあるような商品ではなく独自の選択を行ったという意味でセレクトとよばれる理由がある。「ビームス」「シップス」などの例があるが、ジーンズカジュアルショップのなかにも増えている。

■ゾーニング

小売店の売り場のなかでの場所の区切り方。顧客に対して、ここにこんな商品がありますよという印象を明確に伝えたり、他の関連する売り場や商品との対比や調和を図ることが重要とされる。

■増床

小売店などが売り場面積を拡大すること。ビルの増築、売り上げ拡大を狙った百貨店コーナーの拡張、ショッピングセンターのテナントが隣りの区画を獲得するなどの状況がある。

■粗利益

荒利益とも言う。製品・商品の売上高から売上原価を差し引いた金額を言う。また、売上高に対して、粗利益の比率を粗利益率という。

■損益分岐点

損益発生のはじめとなる売上高。

■退店

小売店が営業を閉鎖してその場所から出てゆくこと。入居前の現状に復帰する撤去工事や商品、人材の処置など必要。それなりに経費が必要となる。

■大店立地法

大規模小売店立地法。2000年に施行された面積1,000平方メートル以上の大規模小売店に関する法律。それ以前が大手スーパーなどの進出から既存の中小商店街小売店などを保護する目的であったが、自由化の見地からこの要素は外され、交通渋滞、環境美化などの地域調和が盛り込まれている。

■立ち上がり

たちあがる、動作を起こし始めたところという意味で、商品の導入期を指す。

■タッグ

ジーンズ等製品に紐や糸でぶら下げる印刷物一般。ブランド、商品説明、バーコード等のデータ等目的により種々ある。

■棚卸し

決算や整理のために、在庫の商品、原料、製品などの種類・数量・品質を調べ、その価格を評定すること。

■団塊ジュニア

第二次大戦直後の1947～1949年にかけては第一次ベビーブームと呼ばれ、その時期に生まれた世代を「団塊の世代」と言う。そして、その「団塊の世代」の子供達の世代も第二次ベビーブームとなり、とくに1971～1974年に生まれた世代を「団塊のジュニア」と言う。人口の多さで、流行のトレンドを生み出すと言われる。

■単品

ジーンズボトムス商品はひとつひとつ個別に購入される傾向が強い。紳士服のように上下セットであったり、コーディネートを強く意識した売り場展開を行う婦人服などとは異なる。これを意識したときにシャツやジーンズは「単品ビジネス」などと言う。

■チェーン店

屋号や商品、サービス内容を統一して展開する複数の店のこと。連鎖店とも言う。飲食、サービス、衣料などほとんどの分野でチェーン店化が進行している。チェーンストアというと狭義にいわゆるスーパー業態を意味することが多い。

■直営店

製造卸業と小売業は伝統的に分業しており、互いに別個の存在であったが、最近製造メーカーなどが直接小売店を運営するケースが増加している。このような場合に「メーカーの直営店」と言う。また他社に任せていた小売店を直接自己で運営するようになることを「直営化」と言う。

■賃料

小売店が家主(デベロッパー)に支払う月額決めの家賃。営業料ということもある。通常は売上金額に比例して比例増額されるが、下限を決めていわゆる「最低保証」の額を決めるケースも多い。入居時の保証金などとは別個。

■坪効率

一定期間(例えば年間)での3.3平方メートルあたりの売上金額高。1平方メートルあたりで計算することもあるが伝統的な「坪」での計算も多い。アメリカでは平方フィート(0.093平方メートル)で計算する。売り場効率の項参照。

■ディスプレイ

広い意味で「装飾」のこと。小売店のショーウインドなどへの飾り付けを指す。

■ディベロッパー

通常ショッピングセンターなどの家主のこと。立地を選び、建築物を作るなどして「開発」行為を行うことからの由来。

■定番商品

流通に左右されることなく、恒常的に売れる商品のこと。

■適正在庫

販売にあたって、品切れや過剰在庫にならない最も適した在庫量のこと。

■テスト

趣味、好み、味という意味で、とくにファッションの場合では商品そのものの感性や感度、価値観のことを指す。

■デザイナーズブランド

デザイナーの個性や特徴を強く打ち出したブランドで、デザイナーの名前をブランド名にしていることが多い。

■デッドストック

売れ残り、在庫。

■テナント

ショッピングセンターなどで入居している側、店子、小売店のこと。

■デリバリー

配達、配送、引き渡し、出荷のこと。

■ドミナント

「優勢な」「支配的な」の意味。ある一定の地域(地方都市など)で集客や売上げを優位に保ち、他のライバルを継続的に引き離せれば、経営的な安定を得られることになる。

■トレンド

動向、傾向、方向、趨勢のこと。

■ナショナルチェーン

チェーン店のうち、その展開店舗が全国的な規模のもの。一部地域に限定されるチェーン店はローカルチェーンと言う。

■ナショナルブランド

NB とも略す。特定の小売店ではなくほぼ全国の複数不特定の小売店で展開されるブランドのこと。

■ニューファミリー

戦後生まれのベビーブーム世代が、従来の価値観とは異なったライフスタイルを指向する新しい家族像のことをいう。例えば、夫婦は対等であり、子どもが少なく、仕事より家庭を重視するなどといった特徴がみられる。

■値入

通常専門アパレル商品は「標準とされる小売価格」がメーカーによって決められている。その価格に対して、いくら額または%で小売店が仕入れるか交渉、決定されること。または、その過程で指値(さしね)すること。

■年商

ある企業の一年間の売上金額高。

■ノベルティ

新規性に富んだ小型のおもちゃや雑貨などのこと。通常小売店などが顧客に無料で配布する販促用の小物。

■ハコ

「箱」に由来。広い面積フロアの百貨店やスーパーなどで一般の広い売り場(平場と言う)とは区別し、壁などで囲み独立性と一定の権威をもたせて展開すること。一定のブランド、商品群などを引き立たせる。

■バーコード

製造業者名、商品名などの情報を、太さの異なる線の組み合わせで表示したもので、光学的検知法で読み取り、売上集計、流通分析などに利用される。

■バイヤー

買い手、買い付けを行う担当者または業者。

■バラエティストア

いろいろな種類の商品を安く売る店、雑貨店。

■パワーセンター

ディスカウントショップの集合したセンターのこと。

■販売代行

小売ビジネスでの販売代行とは、仕入先卸メーカーなどとの契約により、一定の場所で商品を委託されて、実際の小売管理(接客、入金、人事管理、在庫等店舗業務一般を)行うこと。実績に応じて、仕入先メーカーなどから手数料収入を得る。

■販売促進

販売がはかどるように、うながしすすめることを言う。例えば、広報宣伝、DM、チラシ、POP、ディスプレイ、イベント、展示会などの活動。

■平場

百貨店などの従来型の売り場形式。商品分類別の他(シャツ、ズボン)やテーマ別(キングサイズコーナー)などがある。百貨店では三方を壁で囲った「ハコ」型の売り場が増加している。「ハコ」の項参照。

■ファサード

店舗部分の前面、入り口付近。店や商品の好印象を作り、来店を促す重要な部分。ドアや仕切り、ウインドのあり方など技巧を要する。

■ファッションマップ

商品企画やプレゼンテーションのコミュニケーションツールとして使用され、ファッションテーマに基づき商品の色、柄、スタイル、素材などについてビジュアルにまとめた説明図。

■フェア

「お祭り」の意味。「催事」とほぼ同義。催事の項参照。

■フェース

英語でフェースは顔。いろいろな意味で使われるが、シーズン初めなどである商品品番が店頭に揃えられた状態の時、特にその在庫内容をフェースと言う。次第に売れてきて補充が必要なときを「フォロー」と言う。「フェース在庫」、「フォロー発注」などと言う。

■フォークロア

フォークロアは、民族、民間伝承という意味で、衣服では民族衣装や工芸の特徴をイメージしたスタイルを指す。

■フォロー

フェースの項参照。

■物販

物品販売の略。小売業態では大きく分けて、物販(アパレル、グッズ等)、飲食、サービス(旅行代理業等)に分けられ各ショッピングセンターなどでの区分項目となる。

■プライベートブランド

メーカーではなく小売店が自己の企画で展開する部分の商品ブランド。商品リスクを製造メーカーと共有する場合もある。

■フランチャイズ

英語の語源は「利権」「特権」の意味。一定の商品やサービスのノウハウを持った本部と地域を決めてその商品やノウハウを受ける側とで交わされた契約に基づく連鎖形式の店舗展開のこと。本部側をフランチャイザー、商品やノウハウを受ける側をフランチャイジーと言う。

■フリーマーケット

のみの市、がらくた市のこと。類似語として、ストリートマーケットがある。

■プレゼン(テーション)

説明する側が受ける側に伝える内容またその行為。すべての社会関係の場に存在するが、小売店から消費者顧客への商品のプレゼンテーションすなわち商品の意図やコンセプトを伝達することは重要。

■プロパー商品

バーゲン商品と区別して、通常の正価で販売している商品のこと。

■プロモーション

昇進、発起、促進、販売促進、宣伝資料のこと。

■並行輸入

ある国際的ブランドの独占権を持った企業の販売展開とは別に、海外の第三者から自由貿易の原理で同じブランド商品が輸入されること。利害調整がむづかしいこともある。

■保証金

小売店がショッピングセンターなどへ入居契約する時に入居者側から家主に支払われる金額。本来は建物の建築費の応分負担の意味があったが単に入居権利確保の意味合いもあり習慣化してきた。通常 10 年程度経過後や随時の退店時に返還される。家主(ディベロッパー)側の返還以前での倒産なども最近多く、問題化している。

■ボランタリーチェーン

比較的拘束の緩やかな共同仕入れ連鎖店。各小売店の独立性を維持しながら、会員相互の情報共有などを通じて共同仕入れを行い、値入率など経済メリットを得る。日本では紳士服のトップチェーンなどが例。

■ホールセールクラブ

卸値で販売する小売業で、会員制を執っているところが多い。ホールセールウェアハウス、バーゲンウェアハウスと呼ばれるものも意味するものは同じである。

■マーケット

市場、販路、相場。

■マーケットイン

マーチャンダイジングの新しい手法でマーケットの需要の動向に合わせて生産対応すること。

■マーケットシェア

市場占有率。商品の販売高比率。

■マーケットプライス

市場価格。市価、相場。

■マーケットニーズ

市場で求めている物や事。

■マーケティング

市場戦略の記。情報の収集、商品計画、販売促進、販売までの企業活動をいう。

■民事再生法

2000年4月から施行された倒産処理の法律。従来のやり方にくらべて、①従来の経営者が債権処理にあたることも可能なこと、②実際に破綻する以前にも申請できること、③手続きや処理決定が早く経済のテンポにふさわしいことなどが特長である。

■メーカー希望価格

メーカー(生産者)が決めた小売価格のこと。

■メガモール

巨大な規模のショッピングセンター。

■モチベーション(動機づけ)

人間関係論の立場から社員の意欲を増す方法の事。

■モール

英語の語源は樹木の植えられた遊歩道。ショッピングセンターなどで来客が回遊しながら、買い物などを楽しめる形状にしたものをさす。単に店舗が集積したビルではなく、せいぜい3階程度までの高さで通路区空間を外気とオープンな雰囲気するなど工夫したものをモール形式と言う。しかし日本では単にショッピングセンターの意味でも使う。



モール型 SC 建物の外部に回遊路がある

■モニター

通信などを監視するという意味から発展して、広く一般大衆の意見を聞くことなどの意味にもちいられる。メーカー、小売店が通常気がつかない自己の問題点、商品の評価などの評価を聞き取ること。

■家賃

賃料と同じ。同項目参照。

■ライセンス

著名ブランドの商標を他社が使用することへの「使用許可」。ブランド所有者を「ライセンスホルダー」または「ライセンサー」、許可権を得たものを「(マスター)ライセンシー」。ライセンサーから特定の品目の許可を得た者を「サブライセンシー」などと呼ぶ。通常は期間を決めて契約し、売り上げに応じた使用料を「ロイヤルティー」を払う。

■ラック

陳列などの「棚(たな)」のこと。ほぼ同じ意味ながら「シェルフ」は「棚の板」のニュアンス。

■ランニングストック

運転在庫、正常在庫、経営活動を続けるために必要な在庫。

■リアルクローズ

現実的な服といった意味。

■リーズナブルプライス

手ごろな、妥当な、道理にあった価格。

■立地

店舗などの地理的、また空間的な位置。都心、郊外、駅ビル、道路沿いなど集客の上で具体的な有利、不利が評価される。同じ駅前でもとあるひとつの角を曲がると極端に不利になったりする。そのような場合の概念を細かく「微細立地」と言う。

■リサイクル

循環型経済システムの構築に向け、狭義のリサイクル(再資源化)にとどまらず、リデュース(廃棄物の抑制)やリユース(再使用)を加えた「3R」による広義のリサイクルが急務に。これまで大半が焼却処理されてきたアパレル製品のリサイクルの調査研究も始まっている。

■リスク

危険、危機、危険度。

■リードタイム

企画されて製品化するまでの時間、または製品を発注し配達されるまでの時間のことをいう。

■リピーター

繰り返して来店または購買する顧客。または2度目以降の来客又は購買客。

■リベート

手数料、世話料、割り戻し、払い戻しのこと。

■レイヤード

何枚かの衣服を重ねて着るスタイル。

■ローカルチェーン

全国的ではなく、一定の地域を展開範囲とする店舗のチェーン。ナショナルチェーンの項参照。

■ロードサイド

大きな幹線道路にそっていること。またそのような場所にある店をロードサイド(型)ショップとも言う。

■ロット

商品の受発注や出荷のまとまった一定量のこと。「ロットをまとめる」などと言う。ロットがまとまったほうが一着当たりでの物流費は安くなる。

■路面店

ショッピングセンターなどの建造物に入居するのではなく、個々に公道に面した立地に出店している店。したがって小さい店が路地のようなところに出店してもそれは路面店ということになる。

■ワン・ツー・ワン

個人から個人へという意味。パソコンなどを利用して離れた人の中での商取引を行う場合などに使われる言葉。

■ワンブランドショップ

ひとつのブランドで構成された専門店のこと。

2. アルファベット編

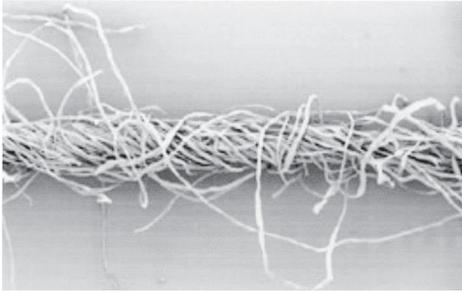
■A,B,C 工事

ショッピングセンター等に新規出店する場合、建物などの構造物を準備する側(デベロッパー、家主)と入居する店側(テナント、店子)との間で、どこまでが自己の作業分担責任かが区分される。

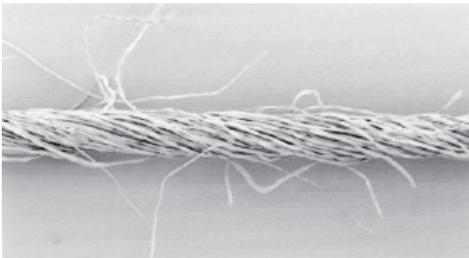
家主側が用意するA工事(通常、壁、床、天井の躯体など)、店子が負担するが家主の指定業者が工事を行うB工事(例えば壁や床の色のみを店子が希望するなど)、店子の負担と設計工事で行うC工事(独自の壁や照明器具の持ち込み工事など)等に区分されるのが通常。A、B、Cは甲、乙、丙とも言い換える。

■BD 糸

紡績糸のうち、空気精紡方式によって作られた糸の種類。紡績機の種類からきた略称。バルキー性があり、コストも安い強度にやや難がある。



BD 糸 (OE 糸とも言う) 空気で精紡され糸にバルキー性があるが、強度改良が必要



リング糸 機械的に撚られしっかりした形状

■ CAD

Computer Aided Design: コンピュータのソフトウェア手法を使って、画像や絵柄、色などを効率的に完成させる手法。織物や衣服のデザインの制作作業にも導入されはじめている。ジーンズの生産では原型パターン(型紙)を制作したり、また各サイズ毎に縮小や拡大する作業(グレーディング)等に応用される。

■ CAM

Computer Aided Manufacturing: コンピュータのソフトウェア手法を使って、生産工程の設計や機械制御を行うことを言い、一般的には自動裁断システムのことを指す。ジーンズ衣服の製造では、生地裁断時に身ごろなどの各パーツをロスの少ないよう効率よく並べつける作業(マーキング)や生地の自動裁断に導入されている。

■ CIM

Computer Integrated Manufacturing: コンピュータ統合生産と呼ばれ、生産に必要な機能や情報を全社的にネットワークで一元化し、生産活動の最適化を目指し制御・管理する生産システムのことをいい、また経営戦略の意志決定まで支援するコンピュータシステム。

■ CRM

Customer Relationship Management: 「顧客との関係管理」のことで、顧客との継続的な関係を企業の「仕組み」としてつくっていくことで、結果的に企業価値を増大させていこうという考え方のものである。

■ CS

Customer Satisfaction: 「顧客満足」。消費者の満足度は「商品」そのもの以外に、接客態度、苦情処理の善し悪し、日ごろのコミュニケーションなどが含まれる。これら幅広い消費者の意識に充

分配慮した手法が意識されなければならない。

■CSC

Community Shopping Center: (地域中型ショッピングセンター)コミュニティとはアメリカの概念に由来。一定の所得や職業階層が住んでいるある地域のこと。具体的には RSC と NSC (別掲) の中間で、人口約 5~7万人規模の商圈を想定したショッピングセンターのこと。

■CSR

Corporate Social Responsibility: 企業経営の社会的責任のことで、これまでは経済面の責任に関心が向けられ勝ちであったが、これに対して企業の環境対策、消費者保護から法令遵守、雇用、地域貢献までの社会に対する責任のことをいう。

■DC ブランド

Designer's & Character's Brand: 和製英語、著名なデザイナーの個人名や特定のブランド、アルファベット、絵柄(アニメ画など)をあしらったり、またそれらの商品をまとめて構成して販売展開すること。

■DM

Direct Mail: ダイレクトメール。店舗や商品の宣伝販促のために郵便または宅配で配布される文書。

■e コマース、EC

Electronic Commerce: 電子取引。コンピュータ通信による商取引。物販やサービス(チケット販売等)を従来の郵便や電話、ファックスなどではなくコンピュータ回線を通じて行うこと。B to B(業者間)、B to C(業者、メーカー、小売店と消費者の間)、C to C(消費者相互間)などに区別される。ジーンズについては色柄や、サイズフィットなど実物を確認したい消費者も多く、まだその比率は少ない。

■EDI

Electronic Data Interchange: 電子データ交換。取引者相互の受発注、在庫問い合わせや引き落とし、店頭情報収集、請求入金処理等を行うためにコンピュータを回線で結ぶ情報のやりとりのこと。ジーンズ業界では一部の百貨店、専門店とメーカーの間で試行が始まっている。電話やファックスでの発注は次第に減少している。

■ EOS

Electronic Ordering System: 電子受発注システムのことで、商品の受注・発注について情報通信システムを介してリアルタイムに処理できるシステム。

■ ERP

Enterprise Resource Planning: 企業の経営資源(人、モノ、金、情報)を一元的に管理することが本来の意味で、企業の経営資源を一元管理すること。

■FA

Fashion Adviser: ファッションアドバイザーは日本固有の呼び名。売場で顧客に助言をしながら販売する担当者をさすことが多い。「FA さん」などと言う。

■FB

Fashion Business:ファッションビジネスの略。

■FC

Franchise Chain:フランチャイズチェーン。一定の商品や運営サービスのノウハウを持った本部と地域を決めてその商品やノウハウを受ける店舗とで交わされた契約に基づく連鎖形式店舗のこと。コンビニ店、外食店が主流だが衣料品業種にも見られる。

■FR

Fitting Room:試着室のこと。

■GMS

General Merchandising Store:いわゆる量販店、スーパーの発展したもの。チェーン形式、セルフ販売を基本としながら、衣料(ソフトライン)、食品(フーズ)、住関連(ハードライン)の3部門を網羅した総合小売店。最近では、同じ場所に大手専門店が入居し競合するなど変化がみられる。

■IP

Item Presentation:店頭で商品の品目(シャツ、ジャケットなど)ごとにその存在感や魅力を区別して見せること。特に顧客のコーディネート欲求を引き出すことが重要である。

■IR

Investor Relations:(株式)投資家への情報PR活動のこと。近年株主の利益を重視するようになり、企業の現状や問題点を頻繁に「開示」し投資家の理解を得ること。株価にも影響し各メーカーや小売は真剣に取り組んでいる。ホームページ上での情報開示も盛んである。

■ISO14000、ISO9000

ISOとは国際標準化機構(International Organization for Standardization)の略称で、本部はスイスにあり、民間の非営利団体。各国の工業規格の統一ということで、国際的な標準規格を策定している。商品、製品、サービスの品質保証に関する規格がISO9000、環境の維持保全に関する企画がISO14000である。小売サービス業も申請や認可に熱心であり、企業あがての意識向上の運動につなげている。

■JAN

Japanese Article Number:通常いわゆるバーコードと併記して表示され、レジなどでスキャンされて商品の動きを把握する目的に使われる。ジーンズ業界では日本ジーンズ協議会の取り決めによりすべての商品に表示されている通常13桁の番号で、品番、色サイズ内容までも区分されている。尚このJANの他に各小売店が独自の管理目的でバーコードとその番号を設定していることもある。



JAN 登録済コード(サイズカードに表示された例)

13ケタの数字で日本(49)+メーカー名+SKUをあらわす。

価格は通常内容に含まれない

■JCA

Japan Chain stores Association: 日本チェーンストア協会。いわゆる量販店系の業界団体。百貨店協会とならんでわが国の有力小売団体。特に仕入れ伝票の統一様式やその記述形式にあわせたコンピュータの情報処理の標準体系を持っている。「JCA 手順の送信」などと言う。

■KIDS

キッズ、英語の子供「kid」の複数形。商品や小売店の子供向けの展開の時に使う言葉。

■LCA

Low Cost Automation: 簡易低コストオートメーションのこと。

■MC

Mass Communication: マス媒体を使った宣伝のこと。テレビ、雑誌などで商品やサービスを告知すること。定義的には小売店の外部で広く大衆に情報が伝えられること。小売店内部やその周囲に限って来客者や通行人に情報が伝えられるものは販売促進(SP)といい、区別される。

■MD(1)

Merchandising, Merchandiser の略。マーチャндаイズとはもともと「商品」のこと。そこから「マーチャндаイジング」とは商品を企画したり、仕入れしたりする行為のこと、またその役目の人を「マーチャндаイザー」と言う。

■MD(2)

Mark down の略。マークダウンとは季節の終わりなどに当初設定した小売価格やその仕入値を下げること。

■MRP

Material Resource Planning: 資材所要量計画。

■NB

National Brand の略。全国展開され広く一般の小売店で売られているブランド。知名度というより

も、取引関係が広く普遍的であることの意味に使われることが正しい。PB、SB などとの対比で使われる。

■NC

National Chain: 全国チェーン。連鎖店でその展開規模が全国的なものの略。一定地域に限られたチェーン店は RC (ローカルチェーン) と略する。

■NPB

National Private Brand のこと。知名度の高い NB を特定の小売店が独自の仕様で独占展開する場合に使う。メーカーブランドの知名度、企画力を利用し一定の収益率向上を狙って企画される。NB と PB の中間とも言える。

■NSC

Neighborhood Shopping Center: 近隣型ショッピングセンター。近年 SC の商圈は広域化していく傾向ではあるが、逆手でごく近い近隣生活圏の範囲を徹底した手法で見直して押さえ込み優位な展開を狙う SC のこと。

商圈人口約 3.5 万人程度。RSC の項参照。なお SC の分類や発展のかたちはアメリカの先進事例を参考にすることが多い。

■OE(糸)

Open End の紡績糸。空気精紡方式で紡がれた綿糸などの糸。一旦個々の繊維がバラバラになって他と離れて開放される状態を経由するのでこう呼ばれる。

■OEM

Original Equipment Manufacturing: 相手先のブランドをつけて、指示された仕様の商品や部品を生産すること。単なる受注生産という意味の他に、ブランドメーカーが自社工場の操業維持のために他社のブランド商品を作ることなどが今日的である。

■PB

Private Brand: プライベートブランド。個々の小売店(チェーン)が独自に展開する自己ブランド。SB とも言う。

■PL

Product Liability: 製造物賠償責任のこと。メーカーの責任による製品の欠陥で消費者などが被害を受けた場合、消費者にはメーカー側の原因を立証し辛い面があった。しかし近年消費者保護の観点からも法制が整備され、メーカー側の対応もより真剣になっている。欠陥のテレビが原因で火災に至るなどが事例である。ジーンズ関連では縫製工程での針の混入によるケガの防止などが課題。

■POP

Point of Purchase: 購買場所で表示される販促物の種類。旗、のぼり、ポスター、説明カードなど季節感や商品説明などに工夫を凝らす。POP 用品などと言う。

■POS

Point of Sales: 購買時点またはその場所をさす。小売店のレジで販売すなわち購買された内容の

情報は極めて重要である。オンライン回線などで瞬時に全店の集約データを把握して次の対策へ結びつける。個々の商品内容をバーコードなどで把握できる機能のレジ機器をポスレジと称する。

■ PPM

Product Portfolio Management: 製品や事業を収益性と成長性で位置づけるもの。

■ QC

Quality Control: 品質管理のことで、製品やサービスの品質が一定の水準を保つように、検査・評価・修正・改善などを行う管理法。

■ QR

Quick Response: アメリカで始められた流通合理化整備の運動。小売や製造さらには素材、資材の各段階での在庫が集積して大きな無駄となっているという問題意識から、コンピュータ情報処理などで川下の売れ筋等をつかみ川上へ連絡して「迅速」な生産と物流で全体的に在庫の圧縮を図ろうというもの。90年代のアメリカでのアパレル業界での成功例も多かった。しかし日本では誤解も多く、外注工場などへの横暴な指示なども弊害とされ、設備や企業間の組織構造にも配慮した新しいSCM運動へと変化した。

■ RC

Regional Chain: 地域チェーン。連鎖店でその展開規模が地域的なものの略。展開が全国規模のチェーン店はNC(全国チェーン)と略する。

■ RFID

Radio Frequency Identification: 直訳では「無線識別」。従来のバーコード式の商品識別に代わって、商品自体またはタグに付けられた小さな「ICチップ」で商品を識別する方法。「非接触」で、「大量」に商品処理が可能。POS売上、棚卸などに有用。

■ RSC

Regional Shopping Center: 広域地域型ショッピングセンター。アメリカ発の言葉。ショッピングセンターは年々大型化し、映画館や遊園地を内包するまでになっている。道路交通網の整備もあり、集客圏範囲は広域化している。商圈人口約15万~20万人程度までもを想定したものをRSCと呼ぶ。日本だと小さな府県の1/3程度をカバーするものまで出現し始めた。

■ SA

Sales Assistant: 小売店などで接客や商品管理などを行う販売員のこと。衣料品ではFAとも呼ぶ。

■ SB

Store Brand: ストアブランド。個々の小売店(チェーン)が独自に展開する自己ブランド。PBとも言う。

■ SC

Shopping Center: 日本のショッピングセンターは最近の法令による規制で大規模出店は沈静化しているが、それでもお客が一日中楽しめるような大型の内容設備のもので集客しようとする動きは

多い。

■SCM

Supply Chain Management: サプライチェーンマネジメント。新しい生産流通の合理化整備の運動。QR(別項)の反省を受けて最近盛んに開発研究が進んでいる。原材料の調達、製造、物流、小売などの流れを最適化するため、IT(コンピュータなどの情報技術)を駆使してコスト削減、在庫の削減、納期の短縮などを狙う。参加する各段階が平等にメリットを受けられるよう配慮がなされる必要がある。QRが迅速さを強調したのに対し、SCMは「供給(サプライ)」側と一体となったシステム構築が眼目である。

■SKU

Stock Keeping Unit: 商品の最終の管理単位のこと、在庫管理の最小単位。衣料品は商品グループ→品番→色→サイズと限定されてはじめて扱う価値が生じる。逆にむやみにこの数(SKU)が増加する傾向があり、在庫やリスク管理上問題となる。そこでできるだけこの数、すなわち広い意味でのアイテム数を削減しながらも顧客の満足を得る工夫が必要となる。ジーンズはサイズ数が多いのが特徴。

SKU数計算

品番	色	サイズ			
		28インチ	29インチ	30インチ	31インチ
スリム	ワンウォッシュ	○	○	○	○
	フェイドアウト	○	○	○	○
	サンドウォッシュ	○	○	○	○

この例では品番1×色3×サイズ4=12のSKUがあるという。

■SP

Sales Promotion: 販売促進のこと。限定的意味としては販売される場所、売り場や小売店を限って行われる商品やサービスの告知活動のこと。MC(宣伝、別項)とは区別された概念。

■SPA

Specialty store retailer of Private label Apparel: 専門店の自己ブランド製造直販のこと。この用語はアメリカ「ギャップ」社が作り出した。近年組織化された専門店チェーンがメーカーからの仕入れにあき足らず、自己企画、自己の製造とリスクで商品の一貫生産小売展開を行うようになった。商品コンセプトや宣伝などの手法で店舗名イコールブランド名という場合が多く、消費者の爆発的支持を得やすい。アメリカの「GAP」、「バナナ・リパブリック」、日本の「ユニクロ」などが有名。商品企画力の維持、リスク負担の管理など今後の課題もある。これと対比して従来のように自己の判断で複数のメーカーからの商品を源泉とするものを「品揃え型」などと言う。

■VC

Voluntary Chain: ボランタリーチェーン。比較的拘束の緩やかな共同仕入れ連鎖店。各小売店の独立性を維持しながら会員相互の情報共有などを通じて共同仕入れを行い、値入率など経済的

メリットを得る。

■VMD

Visual Merchandising:店舗の装飾、商品陳列などの手法に力をいれて顧客の注意を引きつける一連の行動。現代の顧客は商品そのものよりも提示される雰囲気やコンセプトに敏感であり旧来の羅列型陳列では魅力を感じない。

■VP(1)

View Point の略:店頭で来客者の注意を引きつける飾り付けの場所や演出のこと。

■VP(2)

Visual Presentation の略:視覚に訴える商品の提示のこと。顧客が一目見て季節性やトレンド、魅力等が理解できる工夫が必要とされる。

【参考文献・資料】

アパレル品質管理ハンドブック
American Fabrics
衣料品ハンドブック(メンズウェア編 2)
衣料用天然繊維の最新知識
現代衣料辞典
The Dictionary of Costume
The Dictionary of Textile
ジーンズ(婦人画報社)
ジーンズリーダー
ジーンズ&カジュアルレポート
週刊朝日
新アパレル工学事典
事例に見る衣料品の品質管理
実用服飾用語辞典
織研新聞
田中千代服飾辞典
チャネラー
日中英服装技術用語辞典
日本工業規格 JIS L 0122 縫製用語
Histoire de Jeans(フランス)
ファッションビジネス基礎用語辞典
ファッション新語辞典 80 年版
Young young '77 ジーンズ事典

【資料提供】順不同

カイハラ株式会社
株式会社 ビッグジョン
株式会社 島精機製作所
スキセイ工業株式会社
ブラザー工業株式会社
ペガサスミシン製造株式会社
モリト株式会社
ヤマトミシン製造株式会社
繊維流通研究

平成 27 年度文部科学省委託「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業」
岡山県をモデルとした中核的デニム・ジーンズクリエイター地域版学び直し教育プログラム開発と実証

デニム・ジーンズ用語解説

平成 28 年 2 月

学校法人第一平田学園（中国デザイン専門学校）
〒700-0842 岡山県岡山市北区船頭町 12

●本書の内容を無断で転記、掲載することは禁じます。